

ANNUAL REPORT
2020

愛知大学特別重点研究

愛知大学等における
歴史的建造物の調査・研究
年次報告書
— 2020年度 —



愛知大学総合郷土研究所

愛知大学特別重点研究

愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究

年次報告書（2020年度）

愛知大学総合郷土研究所

目 次

はじめに

—特別重点研究「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」の開始と進捗状況—	山田 邦明	1
愛知大学豊橋校舎敷地内旧陸軍施設実測調査報告書	泉田 英雄	3
愛知大学豊橋校舎内物件耐震診断業務構造検討書	(株) 魚津社寺工務店	35
「旧豊橋第一陸軍予備士官学校(歩兵隊)払下申請図面」について.....	山田 邦明	50

はじめに

—特別重点研究「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」の開始と進捗状況—

山田 邦明

愛知大学には「特別重点研究」という研究助成の制度があり、総合郷土研究所が中心となる形で「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」というタイトルのプロジェクトを構想して応募し、採択された。2020年度から2022年度にわたる3年の事業で、本年度は初年度にあたる。

愛知大学の敷地には、かつて陸軍第十五師団の司令部と歩兵第六十聯隊が置かれていた。陸軍第十五師団の建物は明治41年(1908)に建てられ、師団長官舎(現在の愛知大学公館)は明治45年の建築である。大正14年(1925)に陸軍第十五師団は廃止となり、師団司令部と歩兵第六十聯隊の跡地には豊橋陸軍教導学校が置かれることになった。豊橋陸軍教導学校の建物が建てられたのは昭和2年(1927)で、そのあと豊橋陸軍予備士官学校の敷地として利用された。敗戦によって陸軍が解体したあと、昭和21年(1946)に愛知大学のキャンパスとなり、陸軍の建物はそのまま利用された。

その後、陸軍関係の建物の多くは解体されたが、現在に遺されているものもいくつか存在する。明治41年に建築された陸軍第十五師団司令部(愛知大学旧本館、現在の大学記念館)、歩兵第六十聯隊将校集会所(かつての総合郷土研究所・中部地方産業研究所)、機銃廠(現在の中部地方産業研究所附属生活産業資料館)、明治45年に建築された師団長官舎(現在の愛知大学公館)、昭和2年に建築された大講堂(現在の第二体育館)、養生舎(現在の教職員組合事務所)である。

こうした歴史的建造物については、これまでにある程度の調査がなされてきている。陸軍第十五師団司令部(愛知大学旧本館)は平成10年(1998)に国の登録文化財に指定され、師団長官舎(愛知大学公館)は平成14年(2002)に豊橋市の指定有形文化財となり、平成27年(2015)には綿密な建築調査の成果をまとめた報告書が作成された(『豊橋市指定有形文化財 愛知大学公館(旧陸軍第十五師団長官舎) 建築調査報告書』)。このような実績もあるが、歩兵第六十聯隊将校集会所・機銃廠・大講堂・養生舎については、本格的な調査がなされておらず、建物の老朽化も進んでいる。国の登録文化財に指定された師団司令部についても、本格的な調査報告書は作成されていない。また、こうした建物のほかにも、陸軍の時代に造られた門や壁などの建造物(遺構)が各所にあり、全体的な再認識が必要となっている。

こうした現状を克服するためには、現在も遺されている5つの建物(師団司令部・将校集会所・機銃廠・大講堂・養生舎)について本格的調査を実施し、あわせて建物の耐震診断も行って将来の指針を考える足がかりとすることが喫緊の課題となる。このことを実現させるために特別重点研究に応募し採択をみたが、「愛知大学等における歴史的建造物の

調査・研究」と題するこの特別重点研究においては、愛知大学の内部に所在する歴史的建造物の調査に止まらず、より視野を広げた調査や研究を行うことも課題としている。大学の外に所在する陸軍関係の建造物や遺構についての確認・調査を行い、陸軍の敷地全体のありようを把握すること、第十五師団と同時に設置された他の師団の跡地に赴いて建造物の見学や資料収集を行い、それぞれの師団における建造物の立地分析を加えることなどが、ここで提示した課題である。

軍隊が置かれたところには堅固で質の高い建造物が多く造られ、軍隊が退去したあとは、役所や学校など公共の場所として転用され、建物の多くはそのまま利用された。愛知大学はこうした事例の典型であり、古い時代の建造物が遺されていることの意味は大きい。歴史学・地理学・建築学の協同によって調査・研究がなされれば、有意義な学際的研究となりうるし、日本の近現代における軍隊・大学の位置づけや建造物利用の歴史にかかわる研究の進展に寄与できる。

2020年度は特別重点研究の初年度にあたり、最も重要な課題である建物調査を行った。建物調査については泉田英雄氏（元豊橋技術科学大学准教授）、耐震診断については魚津社寺工務店に委託して作業を進めていただいた。9月11日に泉田氏が来学されて建物の確認を行い、10月23日から25日にかけて泉田氏を中心とする本調査がなされた（23日に機銃廠と養生舎、24日に師団司令部と将校集会所、25日に大講堂を調査）。この本調査には渡邊義孝氏、山口晋作氏、魚津社寺工務店の藤井智規氏も参加された。その後、12月6日から7日にかけて泉田氏による補充調査がなされた（6日に将校集会所と大講堂、7日に師団司令部を調査）。このように建物の調査は進められ、その結果を報告書の形でまとめていただいた。

また、建物の本調査を行う前の段階で、旧陸軍の建物・工作物の図面が存在していることが確認された。これは建物や門柱など、ほぼすべての建造物の状況を描いた詳細な図面で、158枚に及ぶ。さらに「旧陸軍第一予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面 建物工作物一覧」というタイトルをもつ地図（「建物工作物一覧図」）もあったが、これは昭和36年（1961）12月段階で愛知大学構内に所在した建物の分布（および陸軍の時代における建物の名称）を示したもので、当時の大学の状況と建物の配置をうかがえる貴重な史料である。愛知大学は昭和37年7月に「旧豊橋第一陸軍予備士官学校（歩兵隊）」（現在の愛知大学豊橋キャンパスの大部分）と「豊橋衛戍司令官官舎」（現在の愛知大学公館）の払い下げ申請を行い、昭和38年10月に認可を得ているが、今回所在が確認された建造物の図面は、この払い下げ申請に先だって昭和36年に製作されたものと推測される。

この「年次報告書」には、泉田氏より提供された「愛知大学豊橋校舎敷地内旧陸軍施設実測調査報告書」と、魚津社寺工務店より提供された「愛知大学豊橋校舎内物件耐震診断業務構造検討書」の一部（「1. はじめに」「2. 耐震診断」「3. 耐震診断結果と補強計画案」）を収録した。また、今回所在が確認された建物・工作物の図面についての簡単な解説と、図面の目録、「建物工作物一覧図」の画像もあわせて収録した。

愛知大学豊橋校舎敷地内
旧陸軍施設実測調査報告書

令和 3 年 1 月 29 日

泉 田 英 雄

目 次

- 1 章 はじめに
 - 1. 1. 立地の変遷
 - 1. 2. 遺構建築の概要
 - 1. 3. 敷地内の遺構建築の配置
- 2 章 歩兵第六十聯隊将校集会所（旧綜合郷土研究所・中部地方産業研究所）
 - 2. 1. 平面
 - 2. 2. 立面
 - 2. 3. 材料と構造
 - 2. 4. 損傷腐朽と耐震診断
- 3 章 第十五師団司令部（現在の愛知大学記念館）
 - 3. 1. 平面
 - 3. 2. 立面
 - 3. 3. 材料と構造
 - 3. 4. 各部詳細
 - 3. 5. 損傷腐朽と耐震診断
- 4 章 第二機銃廠（現在の中部地方産業研究所附属生活産業資料館）
 - 4. 1. 平面と立面
 - 4. 2. 材料と構造
 - 4. 3. 損傷腐朽と耐震診断
- 5 章 陸軍養生舎（現在の教職員組合事務所）
 - 5. 1. 平面と立面
 - 5. 2. 材料と構造
 - 5. 3. 損傷腐朽と耐震診断
- 6 章 陸軍教導学校大講堂（現在の第二体育館）
 - 6. 1. 平面
 - 6. 2. 立面
 - 6. 3. 材料と構造
 - 6. 4. 損傷腐朽と耐震診断

資料編

1. 建物配置図：昭和 36 年頃と昭和 51 年頃の建物配置
2. 将校集会所：平面図、立面図、断面図
3. 第十五師団司令部：平面図、立面図、断面図
4. 第十五師団司令部：玄関部詳細図（手書き）
5. 第十五師団司令部：建設当初の立面図と一階平面図
6. 第二機銃廠：平面図、立面図、断面図
7. 陸軍養生舎：平面図、立面図、断面図
8. 陸軍教導学校大講堂：平面図、立面図、断面図
9. 陸軍教導学校大講堂：断面詳細図
10. 陸軍教導学校大講堂：立面図（手書き）

調査協力

- ・一級建築士事務所 風組・渡邊設計室代表 渡邊義孝
- ・倉敷建築工房 山口晋作設計室代表 山口晋作
- ・(株)魚津社寺工務店 藤井智規

調査日

- ・令和 2 年 10 月 23 日～25 日

1章 はじめに

1. 1. 立地の変遷

(1) 陸軍第十五師団期：明治41年（1908）～大正14年（1925）

明治38年（1905）、明治政府陸軍は4師団の新設を決め、旧高田市（上越市）に第十三師団、宇都宮市に第十四師団、豊橋市に第十五師団、京都市に第十六師団を配置した。第十五師団司令部は、はじめ豊橋市中心部にあったが、広い土地を求めて、明治41年に南部の高師台に移り、歩兵第六十聯隊を統括した。大正14年（1925）に廃止された。



図1. 大正半ばの陸軍第十五師団と関連施設. 豊橋市美術博物館所蔵.

(2) 豊橋陸軍教導学校期：昭和2年（1927）～昭和20年（1945）

仙台と熊本と同時に設置され、昭和14年（1939）には豊橋陸軍予備士官学校が付設された。教導学校は昭和15年11月に市内別所に移転し、予備士官学校だけが残った。

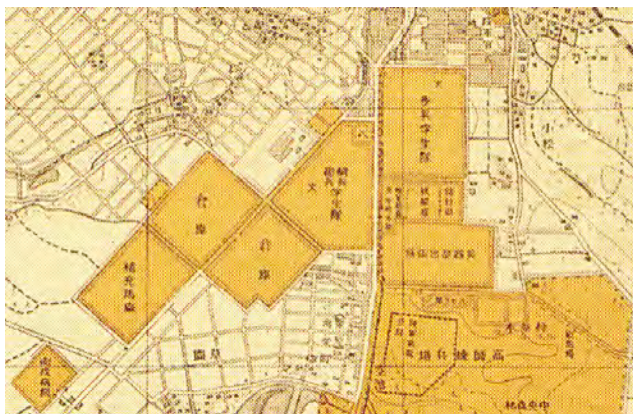


図2. 昭和14年の陸軍施設地図.
豊橋市美術博物館所蔵.



写真1. 昭和10年頃の陸軍施設航空写真.
豊橋市美術博物館所蔵.

(3) 愛知大学期：昭和21年（1946）～現在

愛知大学は、政府から陸軍教導学校の施設をすべてそのままを受けたが、譲渡書類に添付された図面によれば、司令部庁舎、将校集会所、大講堂、養生舎を除くと、ほとんどの建

物は軽微な木造建物であった。偕行社（短大本館）を除く建物を昭和 21 年に借用して開学し、昭和 38 年には払い下げを受けた。その間、多くの建物は老朽化し、または用途に合わなかったために、順次、鉄筋コンクリート造の建物に建て替えられた。

1. 2. 遺構建築の概要

(1) 既往研究

- ・小野木重勝「陸軍第十五師団司令部庁舎-旧陸軍第十五師団兵営遺構の研究（1）」、1992年日本建築学会関東支部研究報告集。
- ・小野木重勝「陸軍第十五師団師団長官舎-旧陸軍第十五師団兵営遺構の研究（2）」、2000年日本建築学会大会梗概集。
- ・小野木重勝「陸軍第十五師団将校集会所・偕行社-旧陸軍第十五師団兵営遺構の研究（3）」、2001年日本建築学会大会梗概集。
- ・愛知県教育委員会「愛知大学豊橋キャンパス内の旧陸軍関係建物」、愛知県の近代化遺産、平成 17 年。
- ・豊橋市教育委員会「愛知大学公館（旧陸軍第十五師団長官舎）建築調査報告書」、平成 26 年。
- ・愛知大学「旧偕行社建築調査」、平成 28 年。

豊橋技術科学大学小野木重勝教授らは、愛知大学校舎内の旧陸軍の建築物を研究対象として取り上げ、建設の経緯や建物の概略を日本建築学会で報告した。その後、平成 17 年（2005）に愛知県が行った近代化遺産総合調査では、6 棟が歴史的建造物として取り上げられた。しかしながら、その中で旧偕行社は老朽化が著しく進んでおり、平成 27 年（2015）年に解体撤去されたので、現存するのは以下の 5 棟である。

(2) 現存する建築遺構

表 1. 現存する建築遺構一覧

施設名	旧名	建物概要		増改築歴	備考
		建設年代	構造・外観		
総合郷土研究所・中部地方産業研究所	歩兵第六十聯隊将校集会所	明治41年(1908)	木造平屋建、日本瓦葺、下見板貼		
第二体育館	陸軍教導学校大講堂	昭和2年(1927)	鉄骨架構に木造壁、トタン葺、下見板貼	壁の筋交い増設、床張り替え等	
教職員組合事務所	陸軍養生舎	昭和2年(1927)	木造平屋建、日本瓦葺、モルタル刷毛引き		
中部地方産業研究所附属生活産業資料館	第二機銃廠	明治41年(1908)	木造平屋建、日本瓦葺、下見板貼		
愛知大学記念館	第十五師団司令部	明治41年(1908)	木造二階建、日本瓦葺、下見板貼	1982年と1997年に耐震補強工事	

1. 3. 敷地内の遺構建築の配置

払い下げ当時の建物配置（図 3）を見ると、陸軍時代の敷地では、北側に兵舎や食堂などの兵営施設が集中し、中央部には練兵場や運動場が、そして南部に執務及び教育施設が占めていた。さらに個々の建物の図面を見ると、旧司令部庁舎、旧将校集会所、旧第二機銃廠、旧大講堂、旧養生舎を除いて、ほとんどは簡素な木造建物であった。

昭和 51 年（1976）頃の建物配置図（図 4）と比較してみると、愛知大学は基本的に既存の建物をそのまま転用して開学したことがわかる。具体的には、北側の兵舎を学生寮に、中央部の運動場や大講堂をスポーツや課外活動の空間とし、そして、敷地南側の教導学校

の建物を教育、研究、事務の用に当てた。しかし、この旧陸軍施設は大学の用途には質と量において不適切で、司令部庁舎や将校集会所などを残し、旧建物は解体撤去され、順次鉄筋コンクリート造校舎に建て替えられた。

昭和 43 年（1968）に大学副門（旧西門）に隣接して渥美線の新駅が設置されたことにより、この門が大学の入口としての性格が強くなり、入ってすぐの場所に学生の利便を考慮して学生会館と図書館が配置された。残された旧建物は特別な用途が与えられ、旧将校集会所は総合郷土研究所（昭和 26 年設置）及び中部地方産業研究所（昭和 28 年設置）に、司令部庁舎は大学の本館として 1996 年まで 50 年間使用され、1998 年に大学記念館になった。第二機銃廠は、一時期学生ホールとして使われたが、昭和 60 頃に中部地方産業研究所の附属施設として資料の所蔵展示場になった。旧養生舎は陸軍教導学校施設の中では珍しくしゃれた洋館の小建物であったため、教職員組合事務所として活用された。



図 3. 昭和 36 年頃の建物配置.

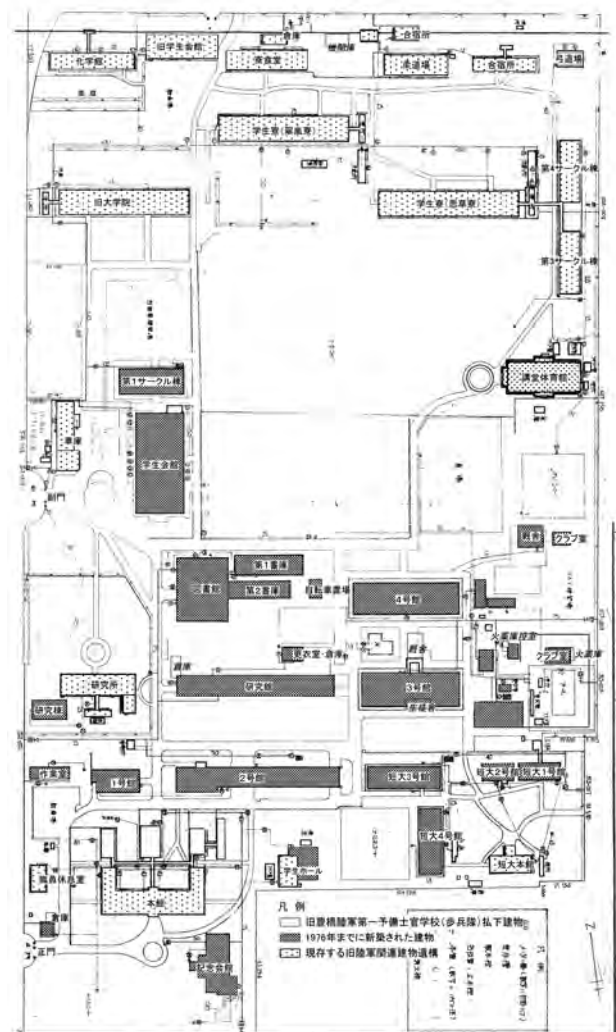


図 4. 昭和 51 年頃の建物配置.

2章 歩兵第六十聯隊将校集会所（旧綜合郷土研究所・中部地方産業研究所）

玄関は建物北側に設けられ、払い下げまで建物北側外観がよく見えるようになっていた（写真2）。玄関前の円路を通して真北に小道が延び、門柱まで続いていた（写真3）。門柱両側には低い土塁が巡らされており、かつてその上に木柵あるいは生け垣が巡らされていた。陸軍時代、土塁のすぐ外側に小さな面会所が設けられ、部外者はここで面会した。

昭和43年に渥美線大学前駅が設けられると、南側改札口と校舎を結ぶ近道が建物に沿って作られ、視界を遮るために生け垣が植えられた。そのため、建物正面の姿が見えなくなり、また庭園との一体感がなくなり、さらに北側に設けられた玄関は閉鎖されてしまった。植栽が旧将校集会所建物と庭園の姿を隠してしまい、今後、大学副門から講義棟に向かう右手の修景が必要であろう。



写真2. 昭和10年頃の将校集会所。豊橋市美術博物館所蔵。北西角の部屋にカーテンが掛かっているのが貴賓室か読書室であったと考えられる。北側に大きな円庭があった。



写真3. 旧将校集会所門柱跡。

2. 1. 平面

東西38メートル、奥行き9メートルの長方形建物と、その東側に6メートル、奥行き9メートルの長方形建物があり、全体としてL字形平面となっている。北側に玄関を置き、玄関ホール右手に守衛室と事務室、その奥に3室が並ぶ。奥北側の部屋には絨毯が敷かれていた痕跡があり、また、窓の内側にカーテンボックスが設けられ、貴賓室か図書室であったと思われる。玄関ホール左手には大きな一部屋があり、縁甲板を長方形に貼り付け、また天井2カ所に照明用天井飾りが付けられていることから（写真4）、数十人が集まる会食などのための大ホールであると考えられる。

南側に廊下が並行し（写真5）、4カ所に階段が設置されているので、関係者は南側から出入りしていた。そうすると、玄関は部外者のためのものであった。廊下を挟んで南東端の

部屋は小屋組の状態から増築であり、床にビリヤード台の脚を固定する穴が空いており（写真6）、娯楽のための小ホールであったことがわかる。

軍関連施設では衛生面に配慮して建物周囲に側溝を巡らすが、便所や浴室などの附属棟では特に丁寧に側溝と踏石を配置している（写真7）。

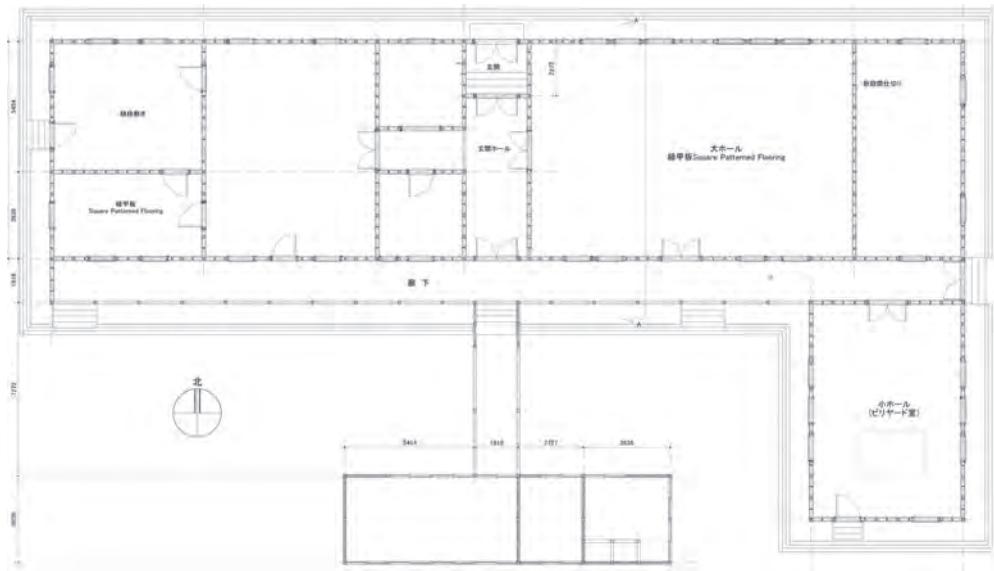


図 5. 旧将校集会所平面図.



写真 4. 大ホールの照明天井飾り.



写真 5. 南側の廊下.

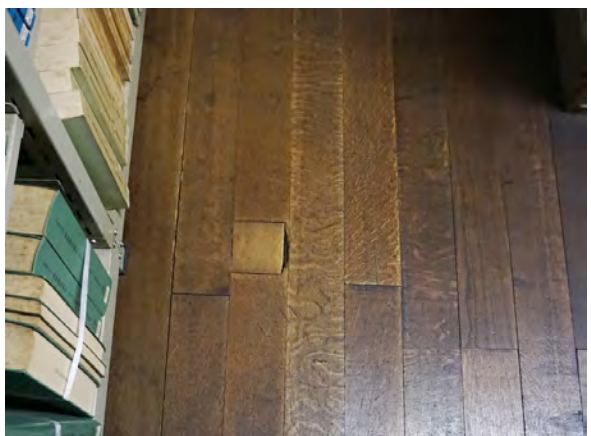
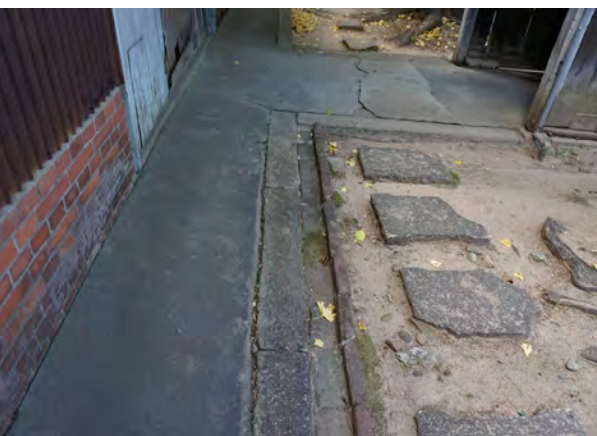


写真 6. 小ホールのビリヤード台脚固定穴跡. 写真 7. 附属棟の側溝と踏石.



2. 2. 立面

高さ 80 センチメートルの煉瓦造基礎が巡らされ、壁は下見板貼りとなっている。上下窓の上下に大ぶりの窓台とまぐさが付く（写真 8、9）。北側立面の中央部に玄関が付き、玄関扉上のページメント内に五芒星の紋章が飾られている（写真 10）。このページメントは庇の役割を果たしておらず、ここは通常の出入口ではなく、部外者が出入りするための形式的な玄関であったと考えられる。

煉瓦造基礎には小さなセグメンタル・アーチによる換気口が付く（写真 11）。壁には部屋ごとに一つあるいは二つの煙突口がついており、冬期には室内は暖房されたことがわかる。

屋根は寄棟屋根となっており、その上に日本瓦が葺かれている。小ホールの南側は切妻となっている。



図 6. 旧将校集会所北側立面図（正面）。



写真 8. 北側外観（正面）. 中央に玄関扉.



写真 9. 東側外観. 上下窓に大きな窓台とまぐさ.



写真 10. 玄関扉上のページメントと五芒星



写真 11. 煉瓦基礎の換気口.

2. 3. 材料と構造

木造軸組の上にキングポスト（真束）のトラス梁を掛け渡して、寄棟屋根を支えている（図 7）。トラス部材は、補強金物で緊結されている。壁の中の筋交は目視できなかったが、すべてに入っていると考えられる。

室内は木摺下地に漆喰塗り仕上げ、床は縁甲板貼りである。縁甲板は部屋の用途に応じて、通常の執務室には平行貼とし、会食などの特別な部屋は四角貼としている。

東南部分が増築された痕跡は小屋組から明らかで、古い方の屋根の上に新しい和小屋が載っていた（写真 12）。

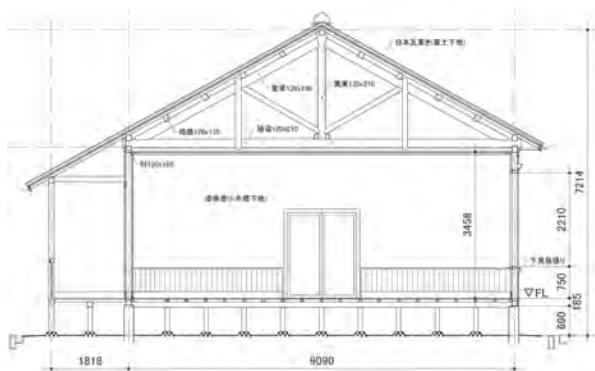


図 7. 旧将校集会所断面図.



写真 12. 増築跡。野地板の上に和小屋組が載る。

2. 4. 損傷腐朽と耐震診断

煉瓦布基礎が地面から 80 センチメートル立ち上がり、その上に床が組まれていることから、湿気による床下木材の腐朽は軽微にとどまっている。小屋組は数カ所に雨漏りの痕跡があり、瓦屋根に損傷が見られ、早急の修理が必要である。軸組はおおよそ堅牢であるが、外壁と内壁は経年による損傷が見られる。

現状のままでは大地震（震度 6～7）に対して倒壊する可能性が高いため、屋根瓦下地の土を撤去し空葺きとして、また外壁の下見板を撤去して内部に構造用合板などを設置し耐力性能を上げるなどの補強が必要である。

3章 第十五師団司令部（現在の愛知大学記念館）

敷地の一番南側に位置し、西側の正門を入りそのまま東進し、建物正面の円庭を左折し玄関に至る。現在、樹木と植栽によって外観が隠されているが、大規模な総2階建て建物である。



写真 13. 昭和 10 年頃の旧第十五師団司令部の正門と庁舎. 豊橋市美術博物館所蔵.

3. 1. 平面

幅 56.3 メートル、奥行き 12.9 メートルの横長の平面の両端に、幅 7.3 メートル、奥行き 12.7 メートルの建物が奥に張り出し、全体として左右対称のコ字形平面となっている。正面中央に玄関ホールが設けられ、1.8 メートルほど外に張り出している。

玄関ホール奥には階段室があり、これを上ると踊場から左右に分かれて 2 階に達する。玄関ホールの左右方向に中廊下が延び、ここを通過して各部屋へアクセスする。部屋は、縁甲板貼の床、腰壁板貼と漆喰による壁、円形飾りの付いた板貼天井となっている。2 階の玄関ホール上の部屋と北西角の部屋は特別な部屋だったらしく、天井板に彫物がしてある。

愛知大学所有になってから 1982 年と 1997 年の 2 回改修補強工事が行われた。前者の時に建物外部に耐力壁を配置し、また後者の時には建物の入隅に鉄柱を取り付け、どちらの場合にも外壁と同じ下見板で覆ったが当初の建物外観を損なうことになった。

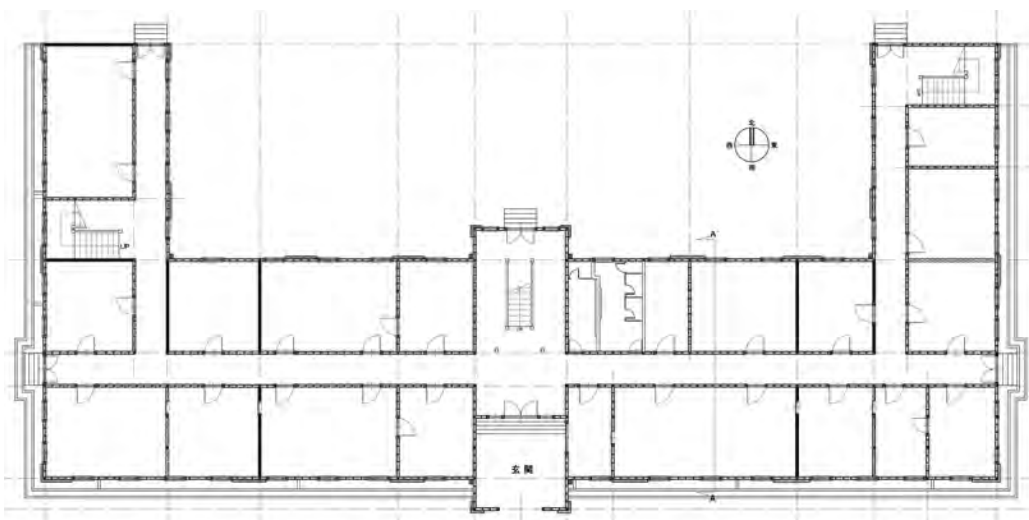


図 8. 旧司令部一階平面図.

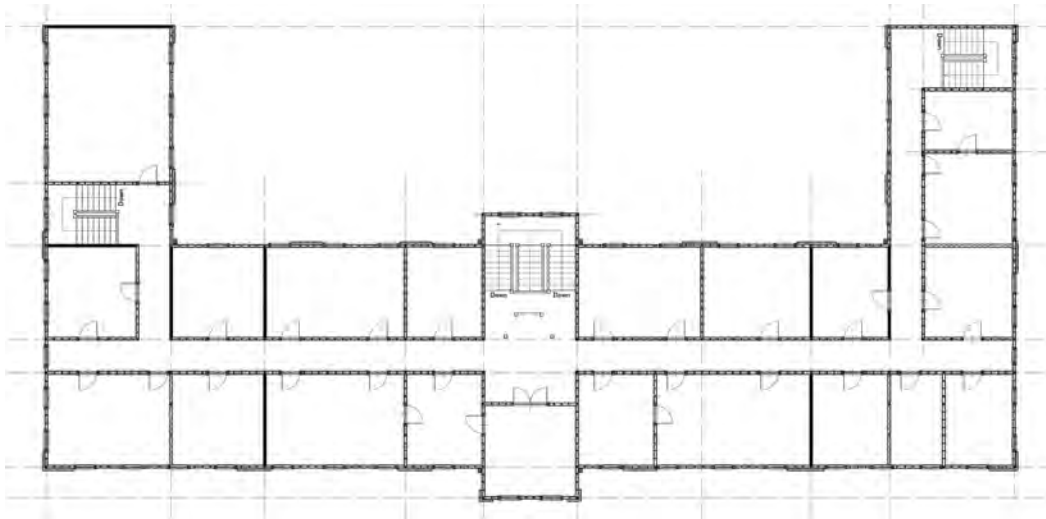


図 9. 旧司令部二階平面図.

3. 2. 立面

煉瓦造基礎の上に下見板の壁とし、1階と2階の同じ位置に上下窓を配置する。寄棟屋根を日本瓦で葺き、正面中央に玄関ページメントを張り出す。1階出入口上にもページメントが付き、陸軍時代にはここに五芒星紋章がついていたと思われる。外観は平面で箱形を構成し、質実剛健な印象を与えようとしていたことがわかるが、1982年に行われた補強工事において外壁に凹凸が見られるようになり、オリジナルの印象が損なわれている。



図 10. 旧司令部の南立面図（正面）.

3. 3. 材料と構造

木造軸組の上にクィーンポストのトラス梁が 1.8メートル間隔で配置され、屋根を支える（図 14）。クィーンポスト内側に方杖が付き、それぞれの部材が金物で補強緊結されている。第二機銃廠の小屋組もクィーンポストであり、明治時代の陸軍には 10メートルを越すスパンの建物にはクィーンポストのトラス梁を用いるような基準があった可能性がある。

母屋は直径 12センチメートルほどの丸太を用い、そ上に 45センチメートル間隔で垂木を掛ける。野地板に葺土を置いて日本瓦を葺いている。

外側は下見板貼り、内側は漆喰壁となっており、壁内部の筋交の存在は目視できなかったが、同時期に建設された師団長官舎と同じように入っていると考えられる。

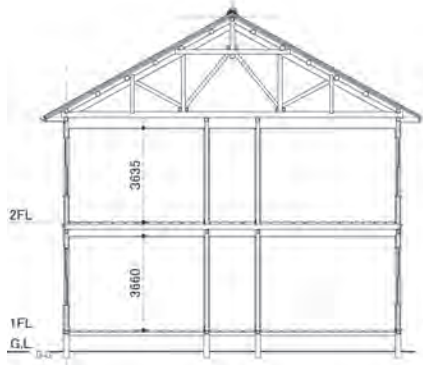


図 11. 旧司令部断面図.



写真 14. 小屋組の様子.

3. 4. 各部詳細

(1) 玄関ホール及び階段室

簡素な外観に対して、玄関ホールと階段室は手の込んだ作りになっている（図 12）。玄関扉の両側及び欄間はガラス窓として、室内への採光をはかるとともに、額縁、金物、飾りに丁寧な加工がしてある（写真 15）。さらに、階段の支柱の飾りにも優れた彫り物がしてある（写真 16）。

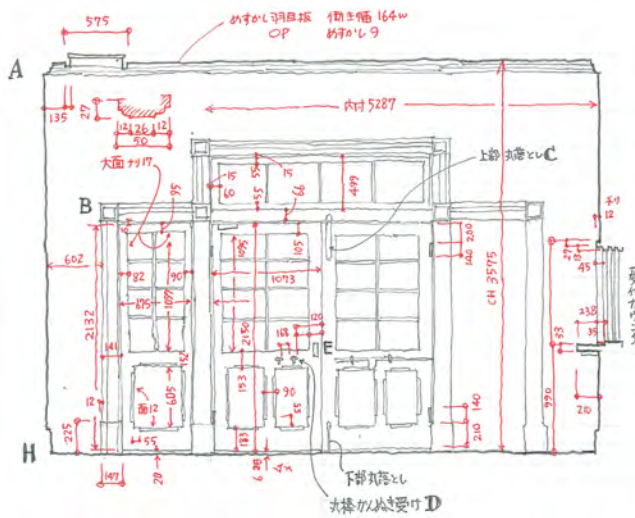


図 12. 玄関扉展開図.



写真 15. 玄関ホールと玄関扉



写真 16. 階段室.

(2) ディテール

- ・東西側面の出入口上には切妻屋根の庇が載り、それを鉄製の持送りが支えている。曲線腕木を大小のリンクが内部で支えている（写真 17）。
- ・基礎の換気口は 30 センチメートル四方の大きさで、その窓台とまぐさに花崗岩を用いる（写真 18）。
- ・玄関ホール二階の部屋と二階北西奥のホールの部屋は化粧天井となっている（写真 19）。
- ・出入口の靴刷りには、摩耗を防ぐために鉄製レールが入っている（写真 20）。



写真 17. 庇の鉄製持送り。



写真 18. 煉瓦布基礎に石造の換気口。



写真 19. 2階西翼部奥の広間の天井飾り。



写真 20. 開口部靴刷りの鉄製レール。

3. 5. 損傷腐朽と耐震診断

過去 2 回大きな補強改修工事がされ、その都度、損傷や腐朽カ所は修理されており、構造材や内外装材にほとんど腐朽損傷は見られない。

増改築に関して、1982 年の補強改修工事の際に外壁に耐震壁が付加され、1997 年の工事では入隅の補強鉄柱を隠すために外側に壁が設置され、当初の外観を損なうことになった。

耐震診断に関して、1982 年の 1 回目の補強修理工事は新耐震基準（1981 年）に基づいてなされと考えられ、震度 5 程度の地震で倒壊しないように外側に耐震壁が設置されたようだ。1997 年の 2 回目の耐震補強工事は、1995 年の阪神・淡路大地震の教訓から基礎と軸組の接合の補強を行ったものらしく、2000 年耐震基準に適合すると考えられ、現状の建物は大規模地震（震度 6～7）で倒壊しない補強がされていると考えられる。この判断が正しいかどうかについては、当時の工事設計図書と工事記録を参照する必要がある。

今後、登録文化財としての価値をより高めるために、これまでの補強改修工事で外部に露出した補強部分を可能な限り撤去し、建設当初の姿に復原するのが望ましい(図13)。今回の耐震診断では、当初の姿に復した場合、どのような補強手段があるのかを検討した。結果的には、外壁の下見板の内側に構造用合板を貼り合わせ、そして基礎の補強を行うことで現状に代わる耐震性能をえることができると考えられる。



図 13. 復原案.

4章 第二機銃廠（現在の中部地方産業研究所附属生活産業資料館）

明治41年に旧司令部の東側50メートルほどのところに建てられた平屋の木造建物である。

4.1. 平面と立面

幅10.9メートル、奥行き18.2メートルの大きさがあり、出入口は北側に設けられ（写真21）、室内は前後に2分され、床はコンクリート土間である。現在、出入口左手側が間仕切りされ、また全面に板床と天井が貼られているが、これらは後補である。外壁は下見板貼りであり、手前の大きな部屋の東西側に大きなガラス窓と換気用の無双窓が装着されている。

二つの部屋の使い方、大きなガラス窓と無双窓の必要性など、機銃廠としての機能に沿ったものなのであろうが、具体的な目的は不明である。

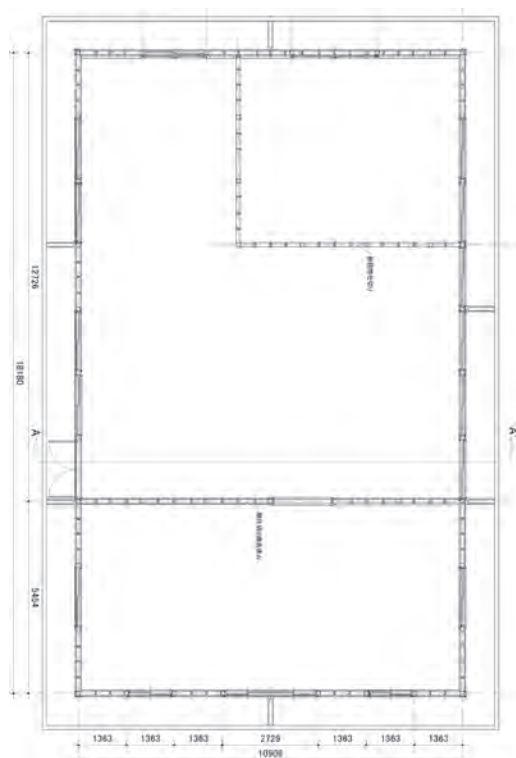


図14. 旧第二機銃廠の平面図.



写真21. 旧第二機銃廠出入口（北側立面図）.



図15. 旧第二機銃廠の西立面図.

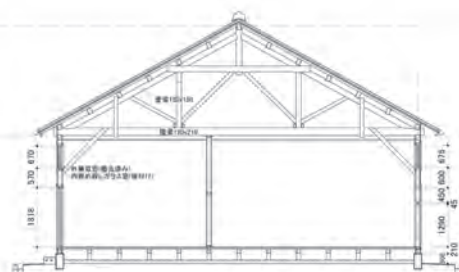


図16. 旧第二機銃廠のA~A'断面図

4.2. 材料と構造

木造軸組にクィーンポスのトラス小屋組を掛け渡して、瓦屋根を支えている。軸組と

小屋組は方杖によって補強緊結されており、おそらく下見板の内側にも筋違が入っていると考えられる。

4. 3. 損傷腐朽と耐震診断

軸組と小屋組にほとんど損傷腐朽は見られないが、外壁の下見板は建設当初のままで、腐朽が著しい。瓦屋根の状態が良いのは、内部造作とともに改修工事が行われたためであろう。

現状のままでは大地震（震度 6～7）に対して倒壊する可能性が高いので、屋根瓦下地の土を撤去し空葺きとし、また外壁の下見板を撤去して内部に構造用合板など設置し耐力性を上げるなどの補強が必要である。補強工事とともに外壁下見板を張り替えれば、展示資料室などとして使用に十分に耐えられるであろう。

5章 陸軍養生舎（現在の教職員組合事務所）

昭和2年、教導学校関係者の遺影や遺品を陳列する目的で教導学校正門脇に建設されたが、昭和8年にこの場所に移築された。

5. 1. 平面と立面

間口14メートル、奥行き8メートルの木造平屋建て建物である。この数字からわかるように、大講堂と同じようにメートル単位で設計されている。玄関ホールが外に張り出し、室内右手が4メートル幅で間仕切られている。外部がモルタル刷毛引き仕上げになっていることから、下見板貼りよりもより洋風な印象を与える。

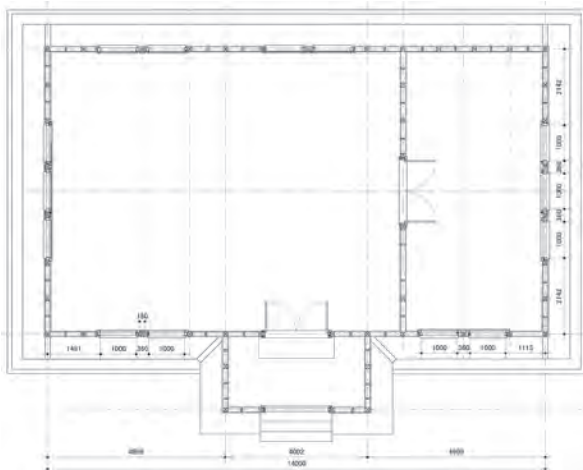


図 17. 旧養生舎の平面図.

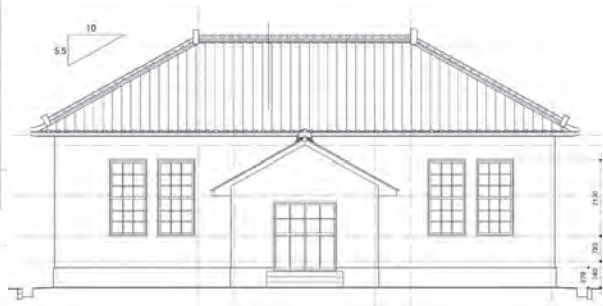


図 18. 旧養生舎の正面図.

5. 2. 材料と構造

木造軸組の上にキングポストによるトラス梁が載り、屋根を支えている。

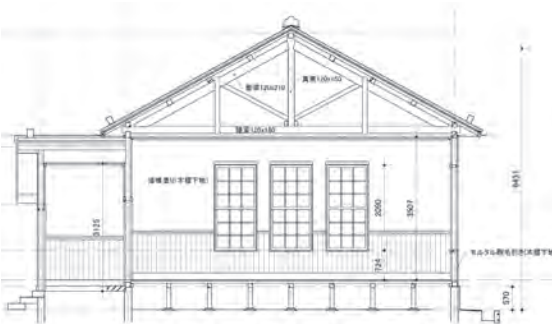


図 19. 旧養生舎の断面図.



写真 22. 旧養生舎正面（東側）.

5. 3. 損傷腐朽と耐震診断

20年ほど前に外に面する窓及び扉をアルミニウムのものに替え、その時に軽微な補修工事がされたらしく、ほとんど損傷腐朽が見受けられない。

耐震診断において、軸組における筋交いの有無は大きな要素となるが、その確認のため

には外側か内側の壁材を撤去しなければならず、大変困難である。筋交いが無いものと仮定して算定したところ、大地震（震度6～7）に対して倒壊する可能性が高いという結果がでた。外壁のモルタルか、あるいは室内の漆喰の内側に構造用合板など設置し耐力性能を上げるなどの補強が必要である。

6章 陸軍教導学校大講堂（現在の第二体育館）

豊橋市に設置された陸軍施設の中で唯一の鉄骨造建築である。練兵場の東側に位置し、大講堂といいながら各種球技にも十分対応できる天井高さを持っており、通常は室内運動場として使われたと考えられる。



写真 23. 昭和 10 年頃の練兵場と大講堂. 豊橋市美術博物館所蔵.

6. 1. 平面

幅 16.6 メートル、奥行き 40.0 メートル（トラス組柱の外面間）あり、また、梁は 5.0 メートル間隔で配置されていることから、メートル単位で設計された。ちょうどバスケットボールコート（15m x 18m）一つが入る大きさであり、体育館として使用することを前提に規模が決められたと考えられる。

L 型鋼をトラスに組んで柱梁とし、切妻屋根を支えている。外壁は木材で下地を組んで、その上に下見板を貼り、一部を漆喰塗りとしている。西妻側に正面玄関（昇降口）を、東西平側にそれぞれ昇降口を設け、一気に大人数が出入りできるようにしている。室内東側壁に演台飾りが残っており、必要に応じて移動式演台が置かれたと考えられる。南北の両側にはガラスによる床窓と高窓が配置され、体育館に相応しい作り方をしている。

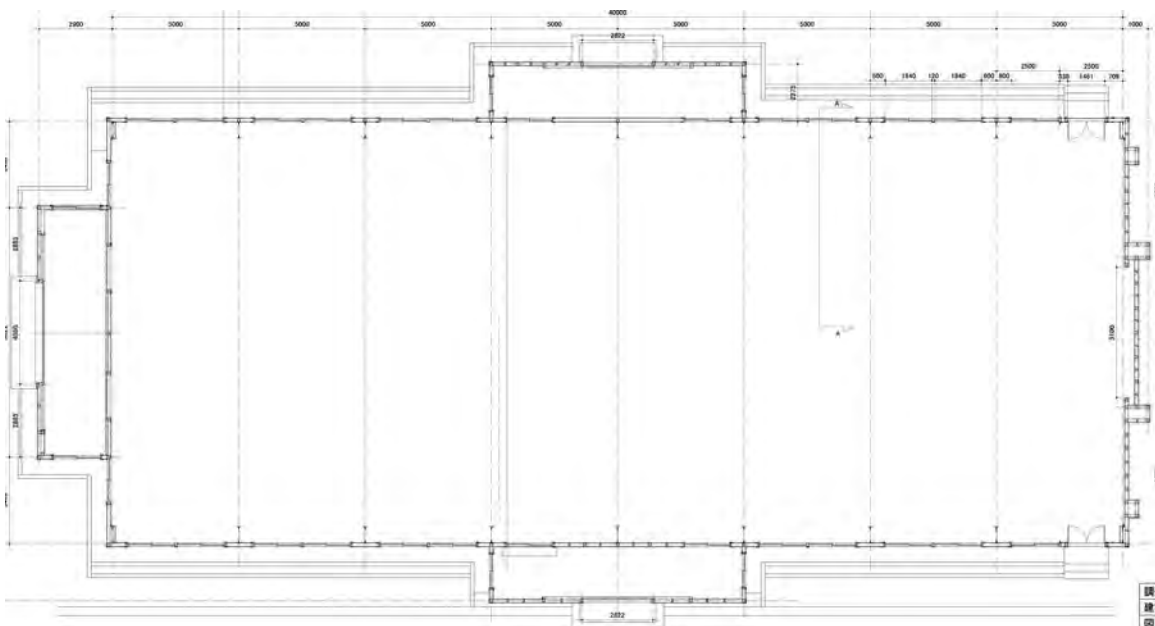


図 20. 旧大講堂の平面図.

6. 2. 立面

建物の外観は、当時の流行を反映したデザインとなっている。外壁は下見板とスタッコ風の漆喰壁を上下に、あるいは交互に使い分け、また正面玄関ホールではざらざらした仕上げの漆喰塗としている。さらに、玄関や庇の持送りにアール・デコ風のデザインが見られる。建設当初は黒茶色の木部と白色の漆喰が大胆なコントラストを演出している。建設された昭和2年頃は、関東大震災復興とともに海外の新しい材料やデザインが入ってきて浸透してきた時期で、軍事施設にもその影響が見られる。

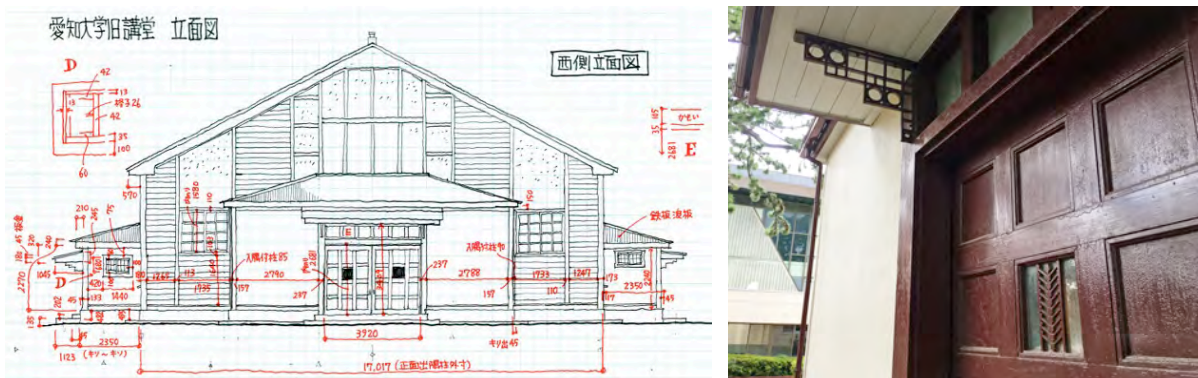


図 21. 旧大講堂の西側立面図. 渡邊義孝スケッチ. 写真 24. 玄関扉小窓と持送りのデザイン

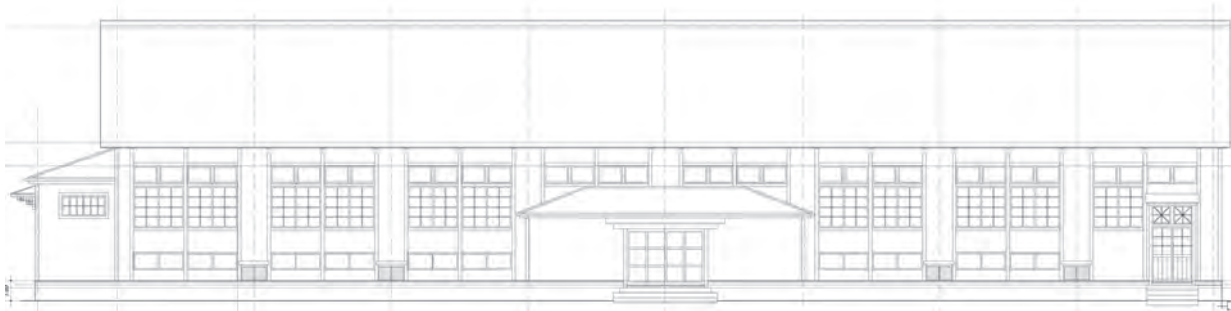


図 22. 大講堂の南側立面図.

6. 3. 材料と構造

アングル鋼にトラス架構を南北方向に5メートルの間隔で配置し、そして架構相互の壁面と屋根面にブレースを入れて剛性を確保している(写真25)。このような構造は、昭和初期から中期まで体育館、駅舎、格納庫、工場などに広く使われた。近くでは旧各務ヶ原陸軍飛行場に同種の建物が現存しているが(写真26)、これは純粹に格納庫として建設されたもので、それに対して本大講堂では接合プレートに三角形欠損を入れ、また中心部のリングを入れているなど和らいだ印象を与える(図23)。

南側と北側の壁内側に異なった断面寸法と接合方法による筋交が見られ(写真27)、これは後から耐震性能を上げるために入れられたものである。



写真 25. トラスによる柱と梁の架構.



写真. 26 旧各務ヶ原陸軍飛行場の格納庫.

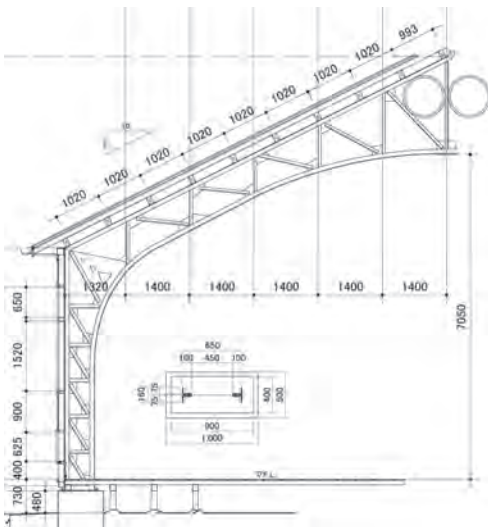
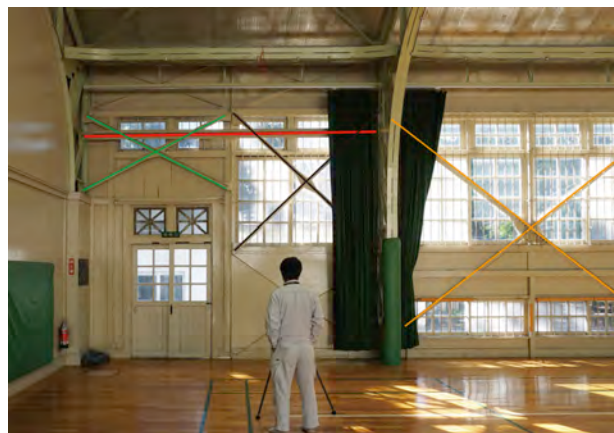


図 23. 旧大講堂の断面図. 3D スキャナー. 写真 27. 後補の筋交と振れ止め (赤、緑、黒、橙).



6. 4. 損傷腐朽と耐震診断

愛知大学所有になってから壁面と屋根面にブレースが付加され、また、屋根が葺き替えられ床が張り替えられ、何度か大きな補強改修工事が施されてきたことがわかる。そのため、目に付く損傷や腐朽はまったく見られない。しかし、2000年耐震基準に合致する建物かどうかは、過去に行われた補強工事の内容を精査してから新たに耐震診断する必要がある。その場合には基礎の状態や接合部を調査するために、一部解体する必要がある。



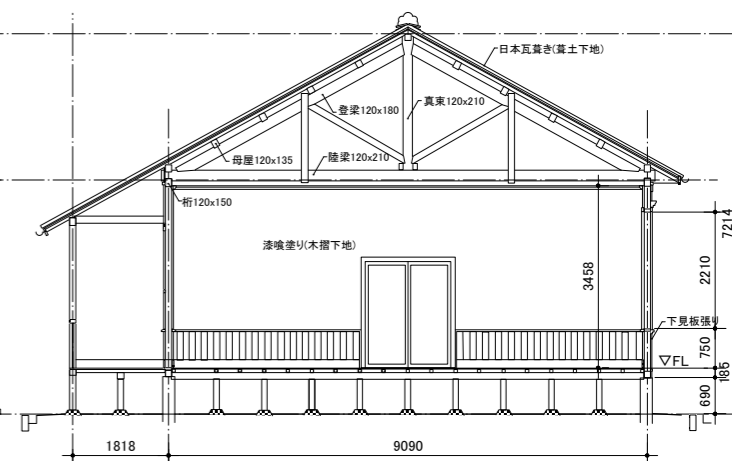
写真 28. 後補の筋交と振止めの根拠が不明.



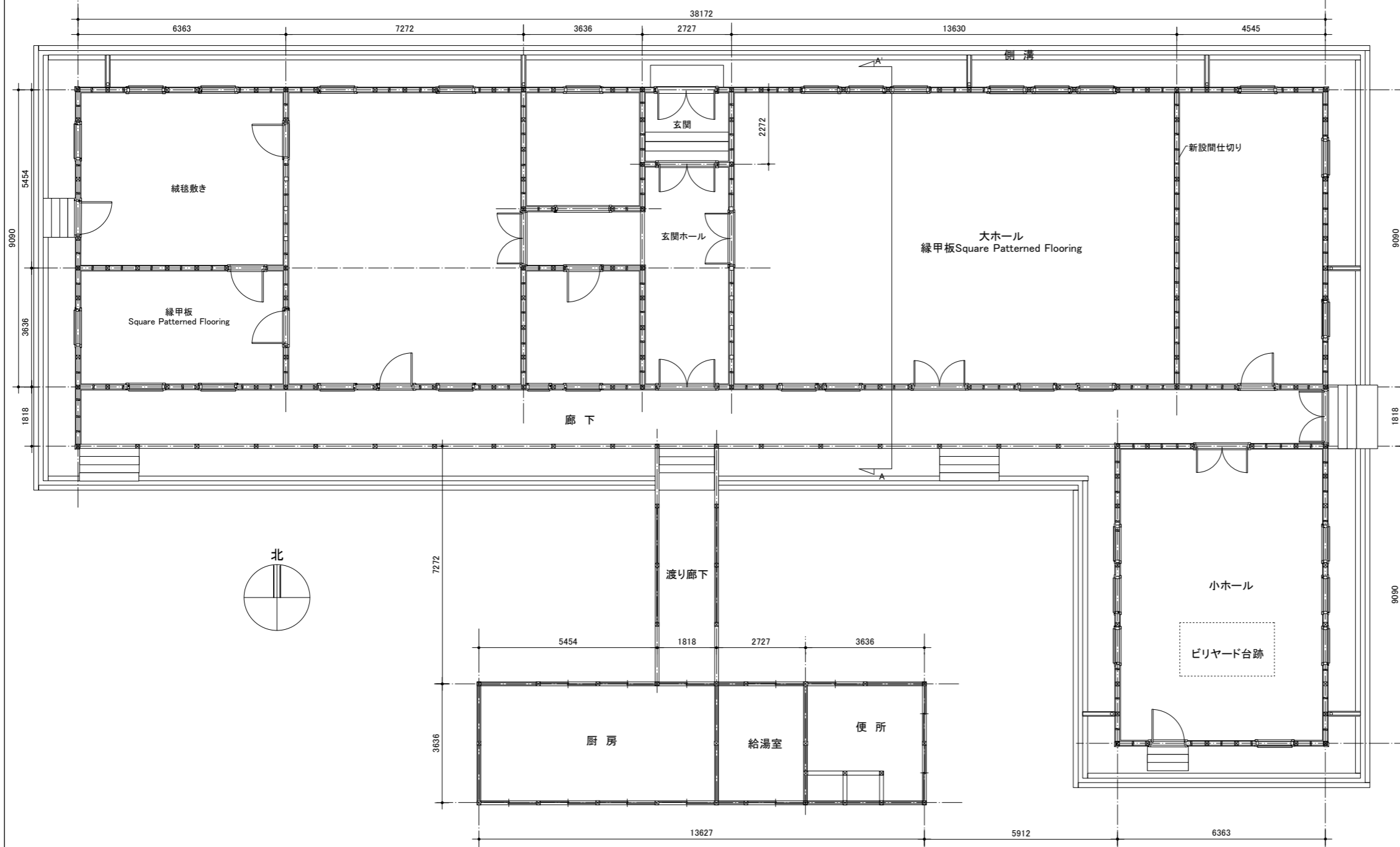
写真 29. 基礎と鉄骨柱の接合が確認できない。



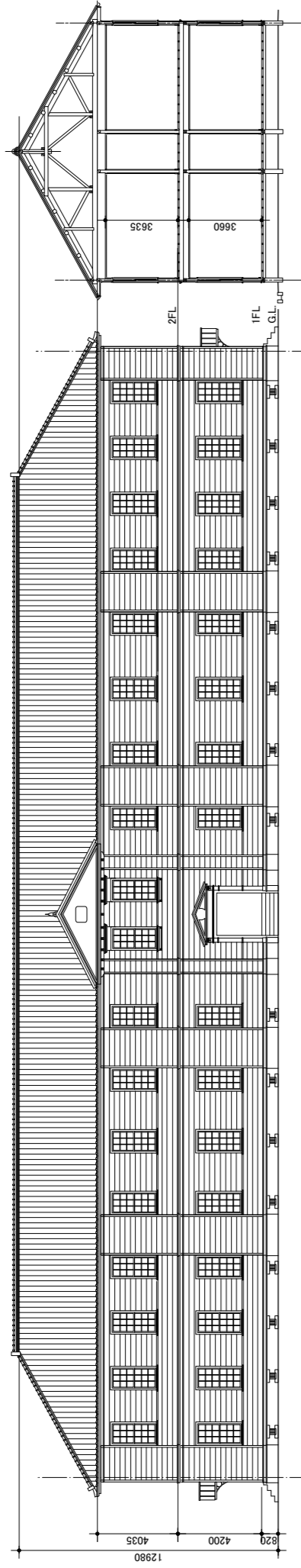
北立面図



A-A'断面

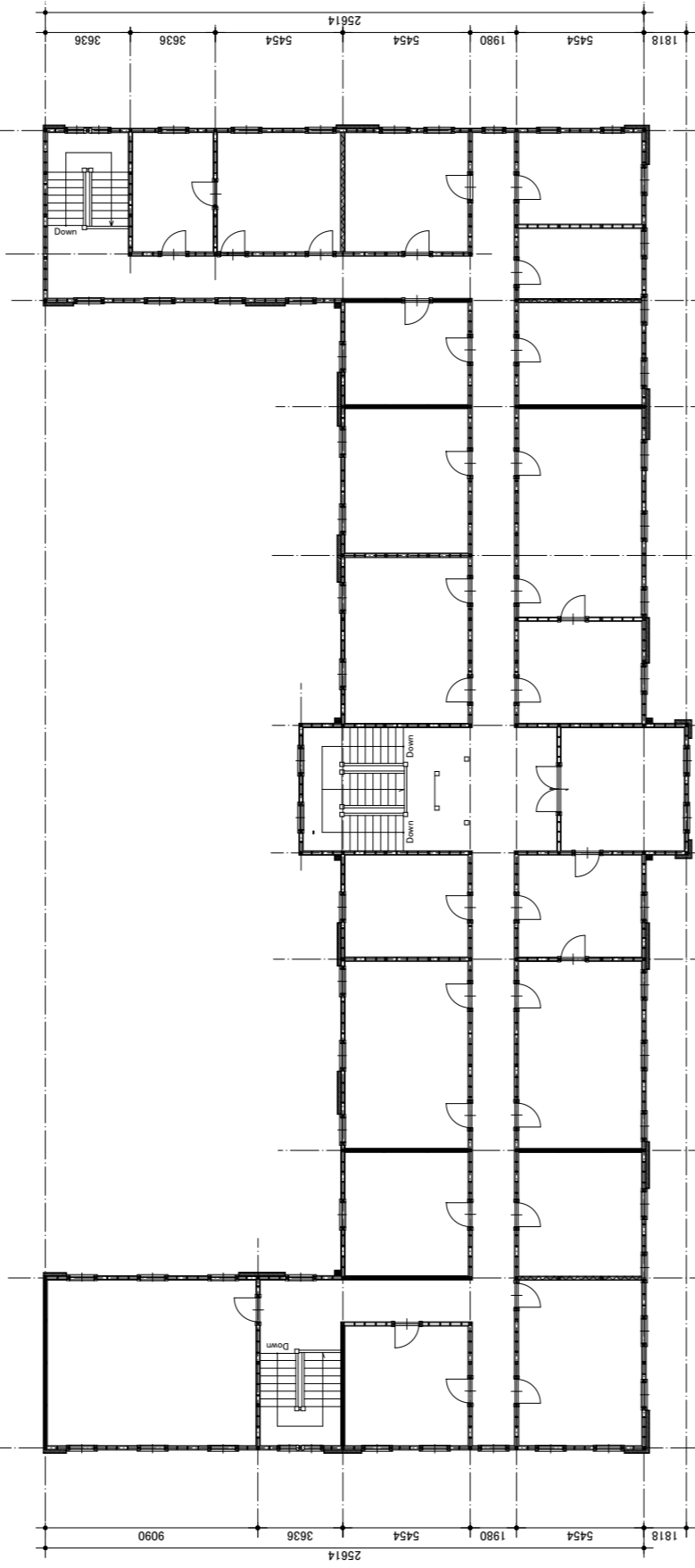


調査名	愛知大学豊橋校舎内旧陸軍第十五師団遺構調査		
建物名	旧将校集会所(旧綜合郷土研究所・中部地方産業研究所)		
図面	平面図・立面図・断面図	縮尺	1/100
作成日	2020年10月23日 修正日		
作成者	泉田英雄(二川ヘリテージセンター代表)		

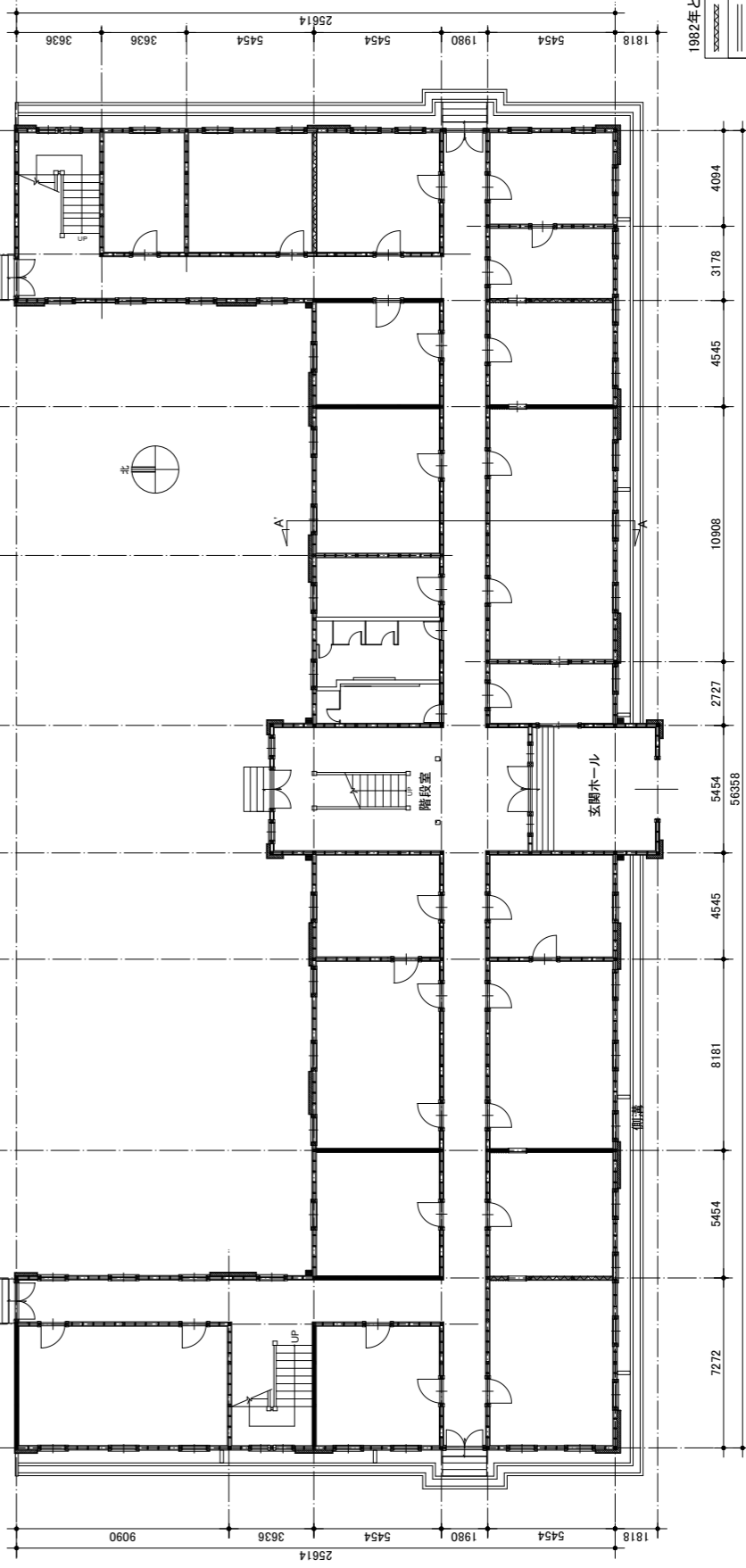


南立面図

A~A'断面図



二階平面図



1982年と1997年の耐震補強工事内容

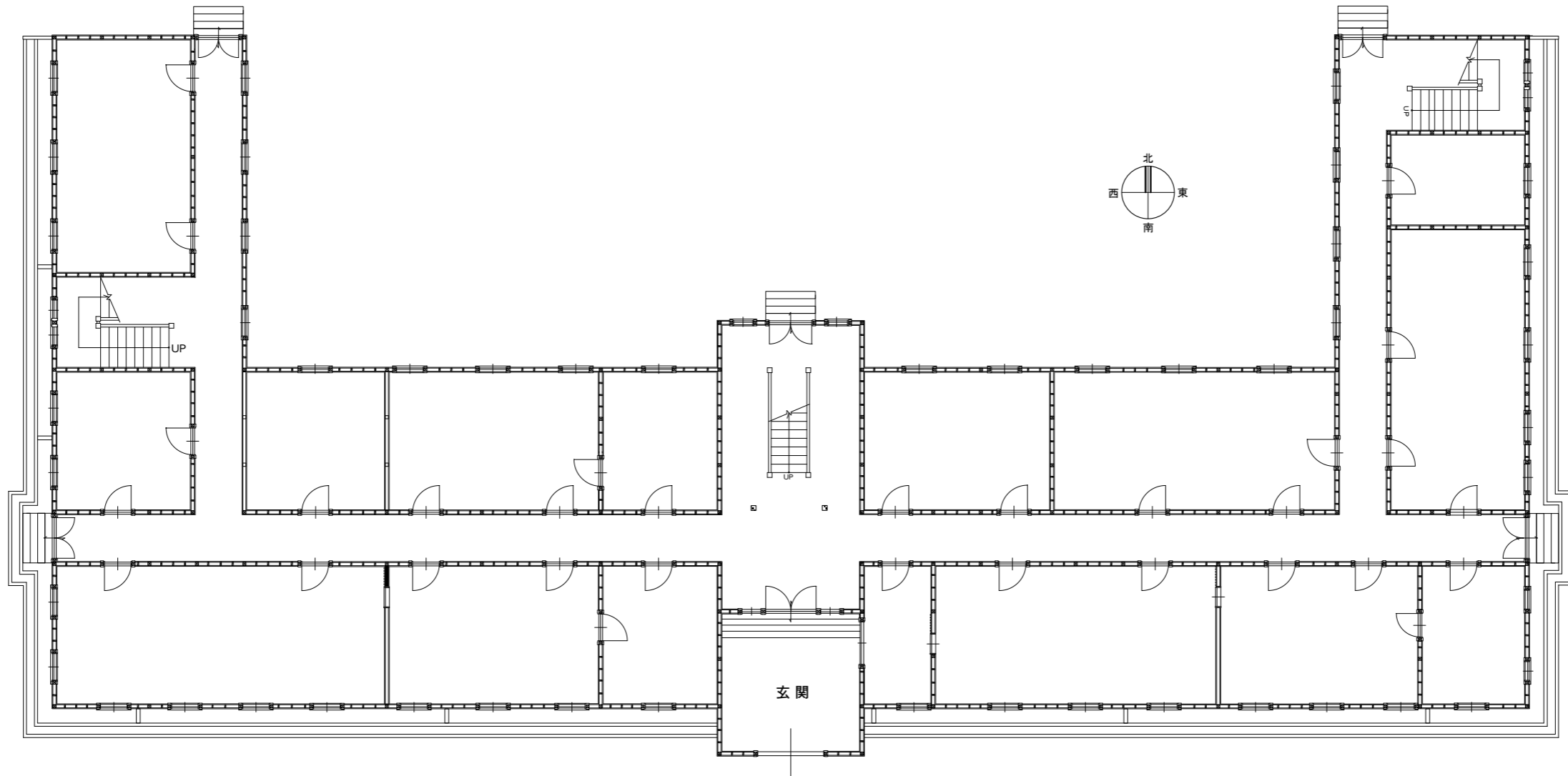
-----	新設耐震壁 (1997年)
=====	新設壁
	新設補強柱 (1997年)
■	既設壁を耐震壁に変更
■	既設補強壁

旧第十五師団司令部 一階平面図

調査名 愛知大学豊橋校舎内旧陸軍第十五師団遺構調査
 建物名 旧司令部(愛知大学記念館)
 図面 平面図・立面図・断面図 縮尺 1/200
 作成日 2020年10月23日 修正日
 作成者 泉田英雄(二川ヘリテージセンター代表)



南立面図

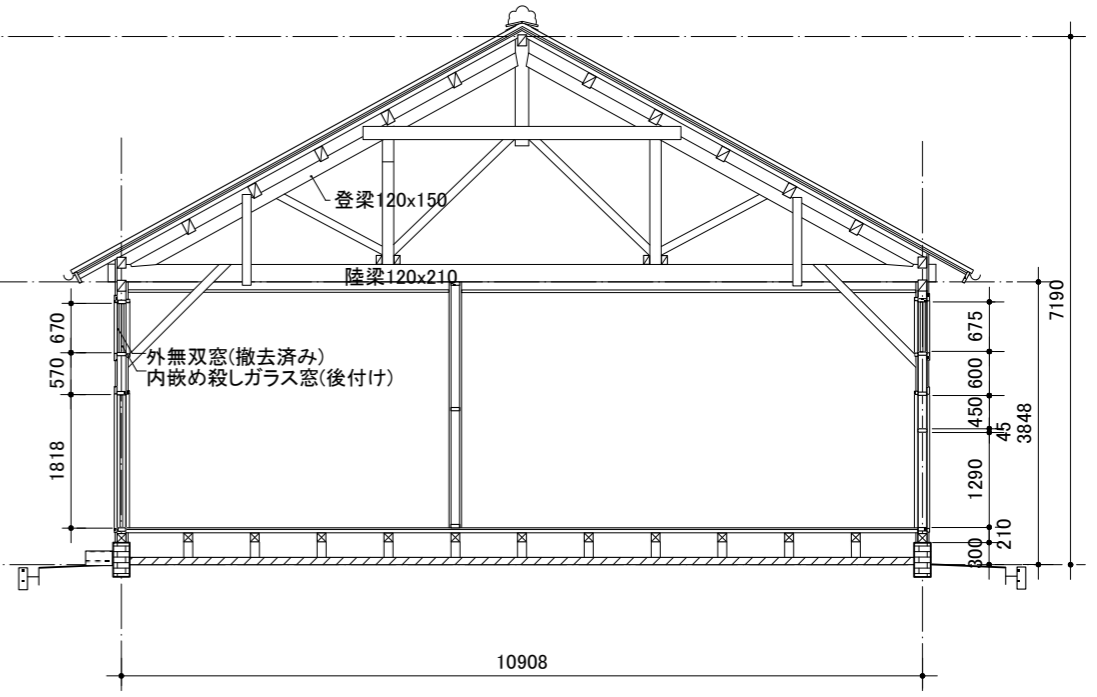


旧第十五師団司令部 一階平面図

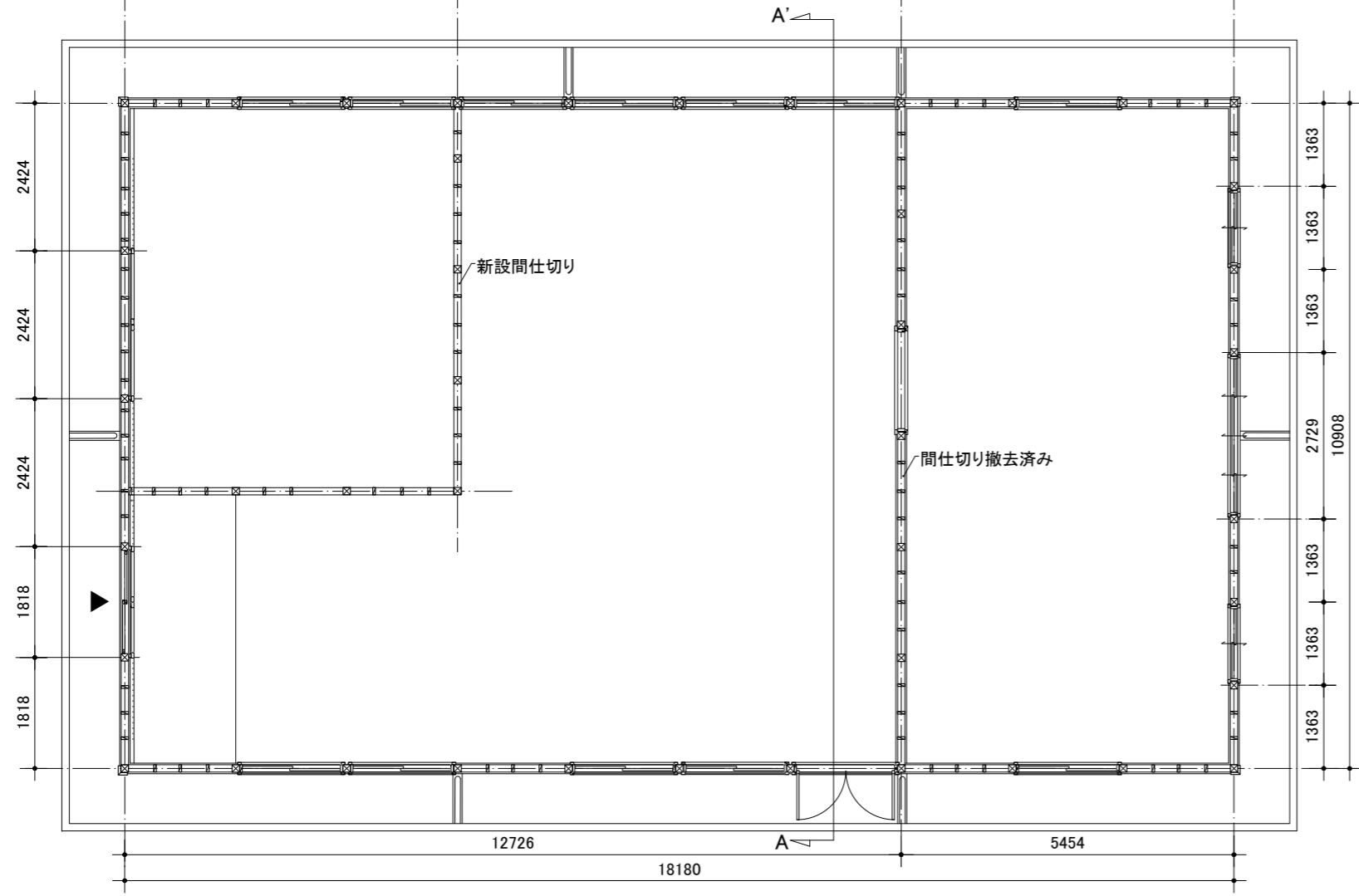
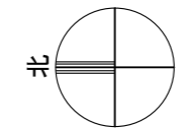
調査名	愛知大学豊橋校舎内旧陸軍第十五師団遺構調査		
建物名	旧司令部(愛知大学記念館)建設当初		
図面	平面図・立面図・断面図	縮尺	1/200
作成日	2020年10月23日 修正日		
作成者	泉田英雄(二川ヘリテージセンター代表)		



立面図

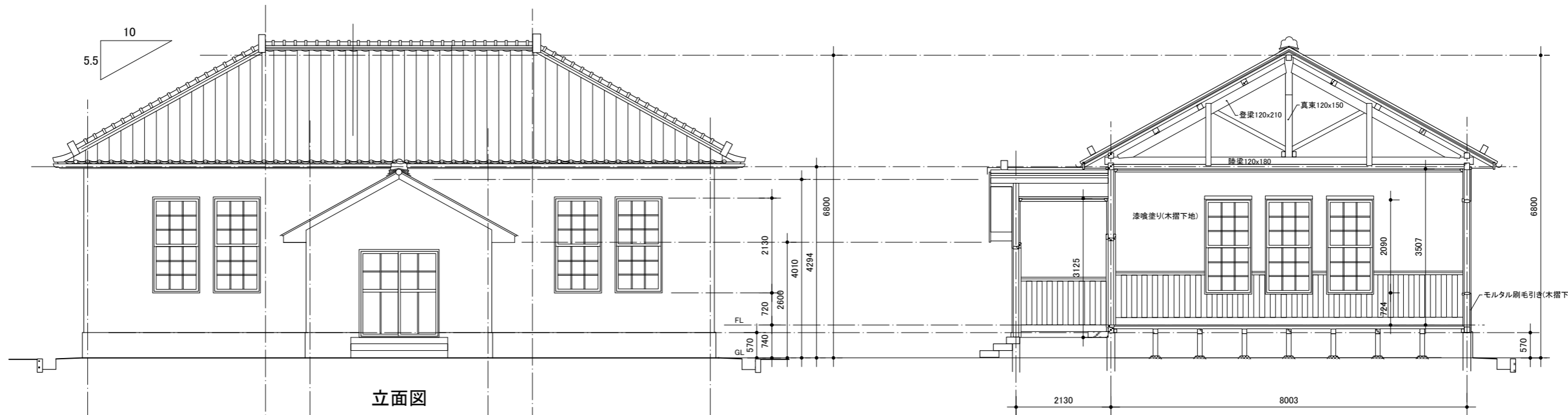


A-A'断面



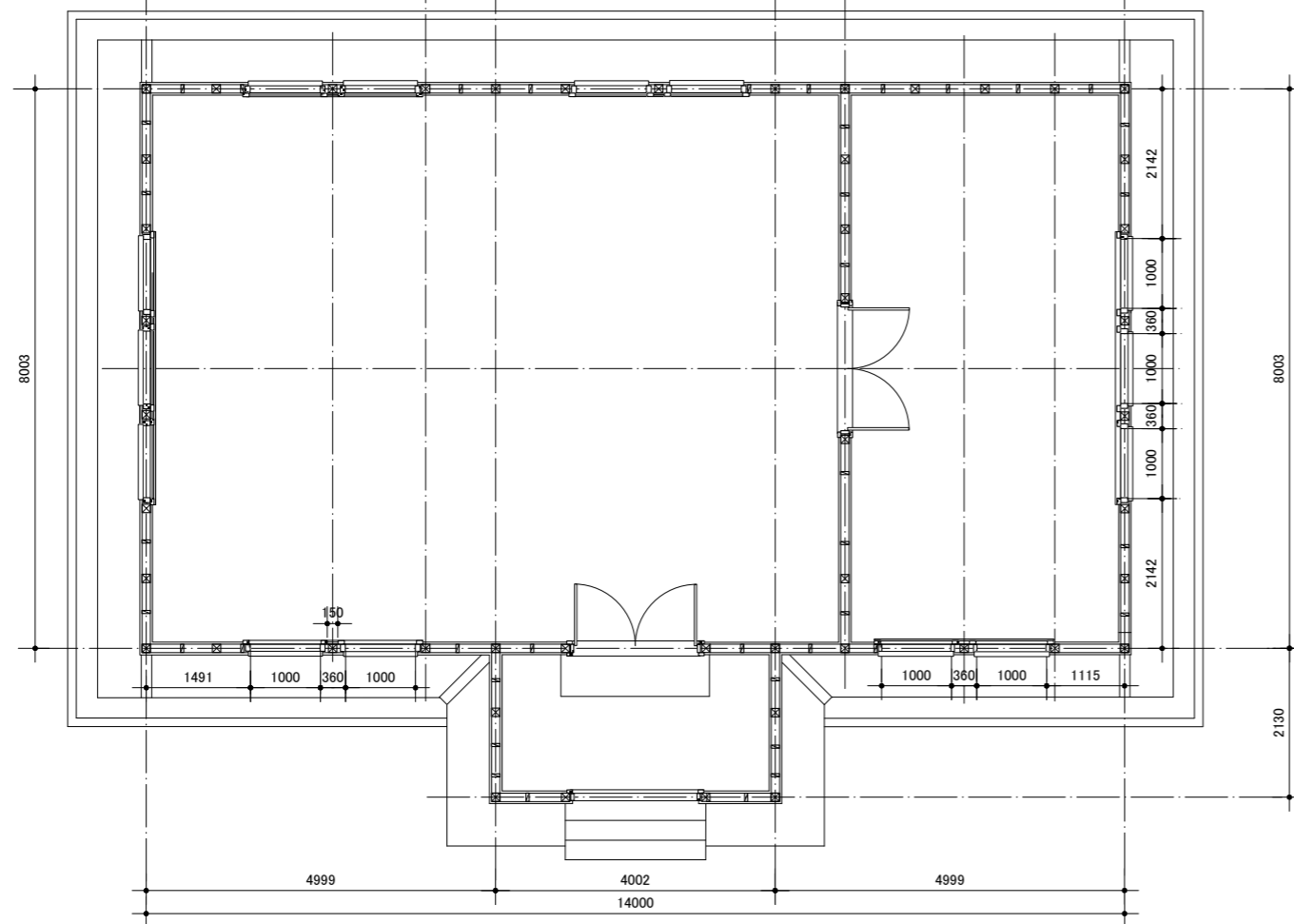
平面図

調査名	愛知大学豊橋校舎内旧陸軍第十五師団遺構調査		
建物名	旧第二機銃廠(中部地方産業研究所附属生活産業資料館)		
図面	平面図・立面図・断面図	縮尺	1/100
作成日	2020年10月23日	修正日	
作成者	泉田英雄(二川ヘリテージセンター)		



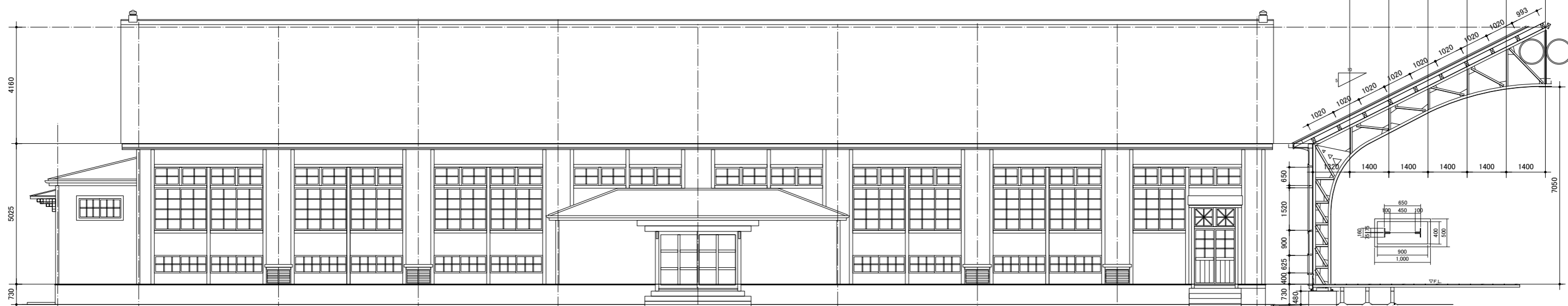
立面図

A-A'断面



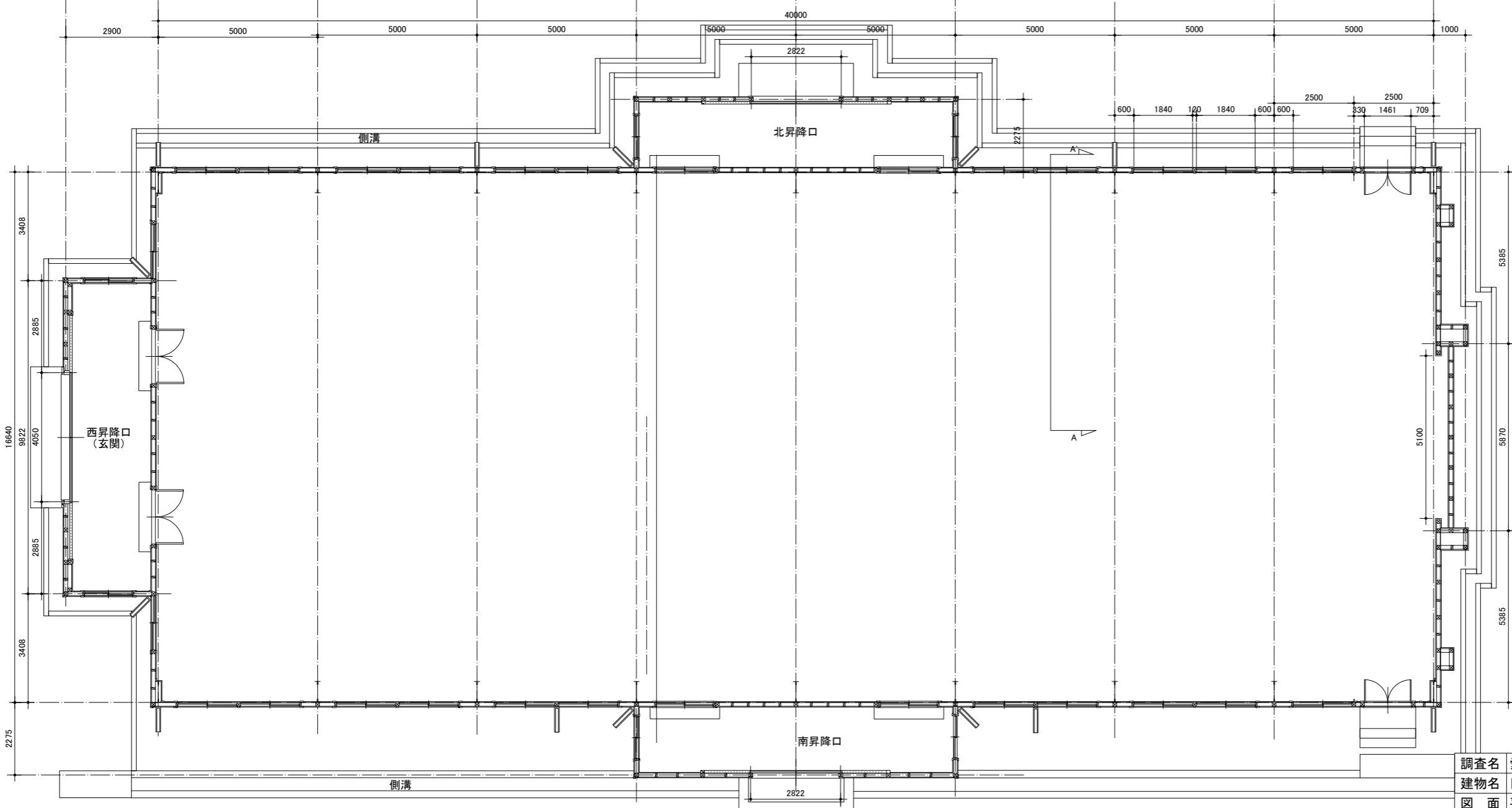
平面図

調査名	愛知大学豊橋校舎内旧陸軍第十五師団遺構調査		
建物名	旧養生舎(愛知大学教職員組合事務所)		
図面	平面図・立面図・断面図	縮尺	1/100
作成日	2020年10月23日 修正日		
作成者	泉田英雄(二川ヘリテージセンター)		



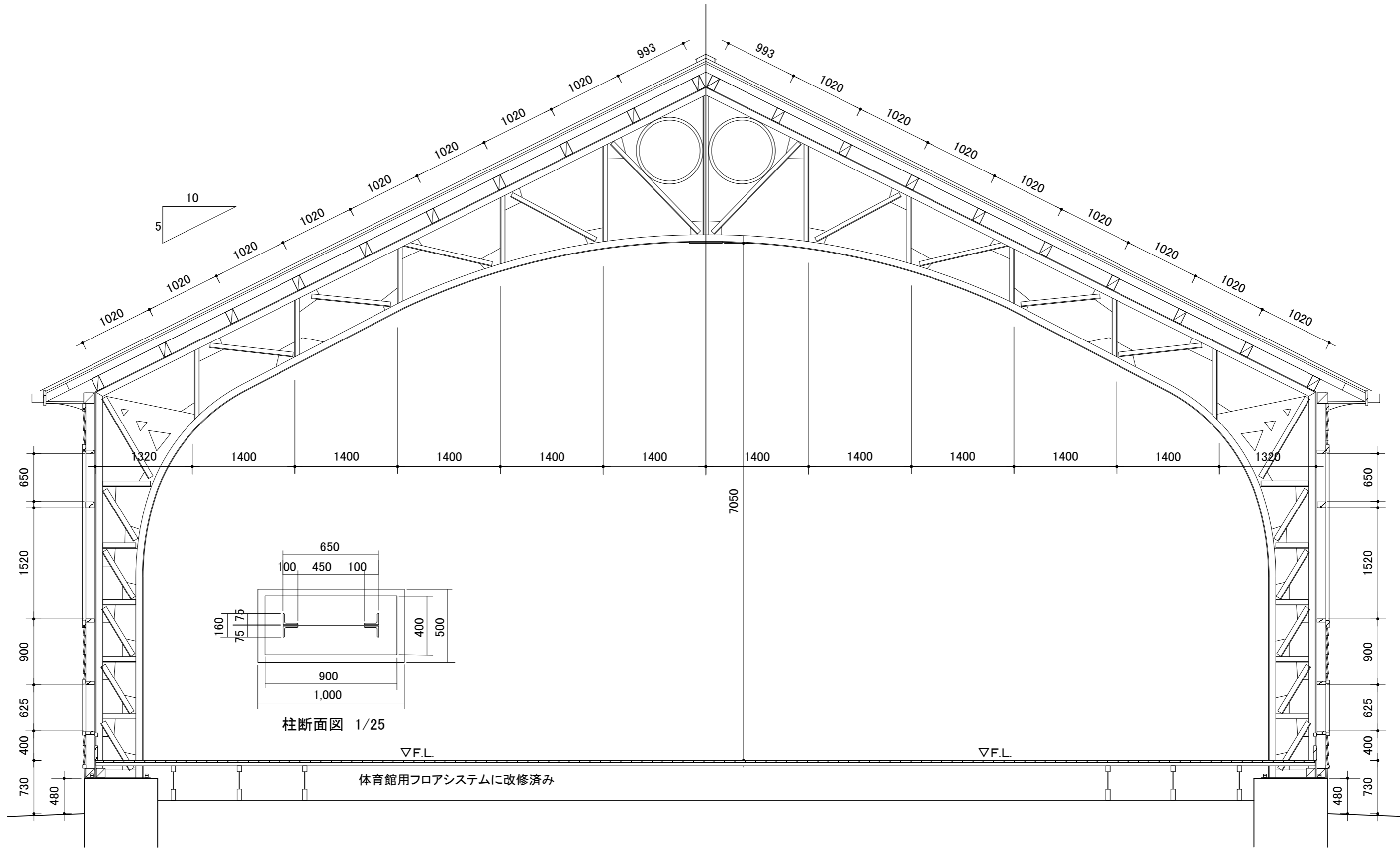
南立面図

A-A'断面



平面図

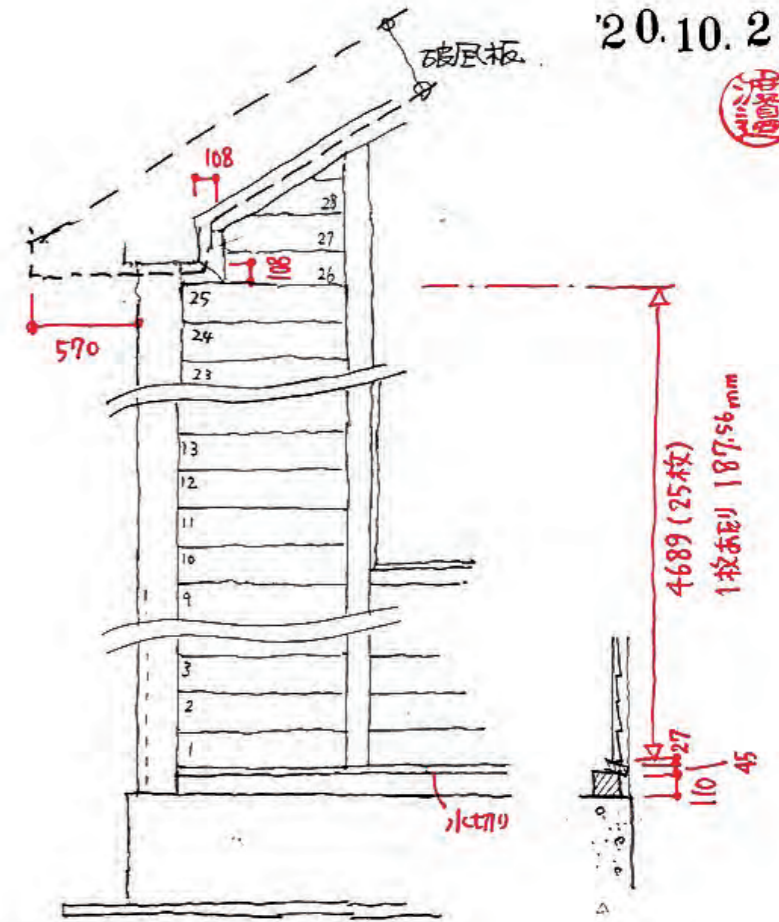
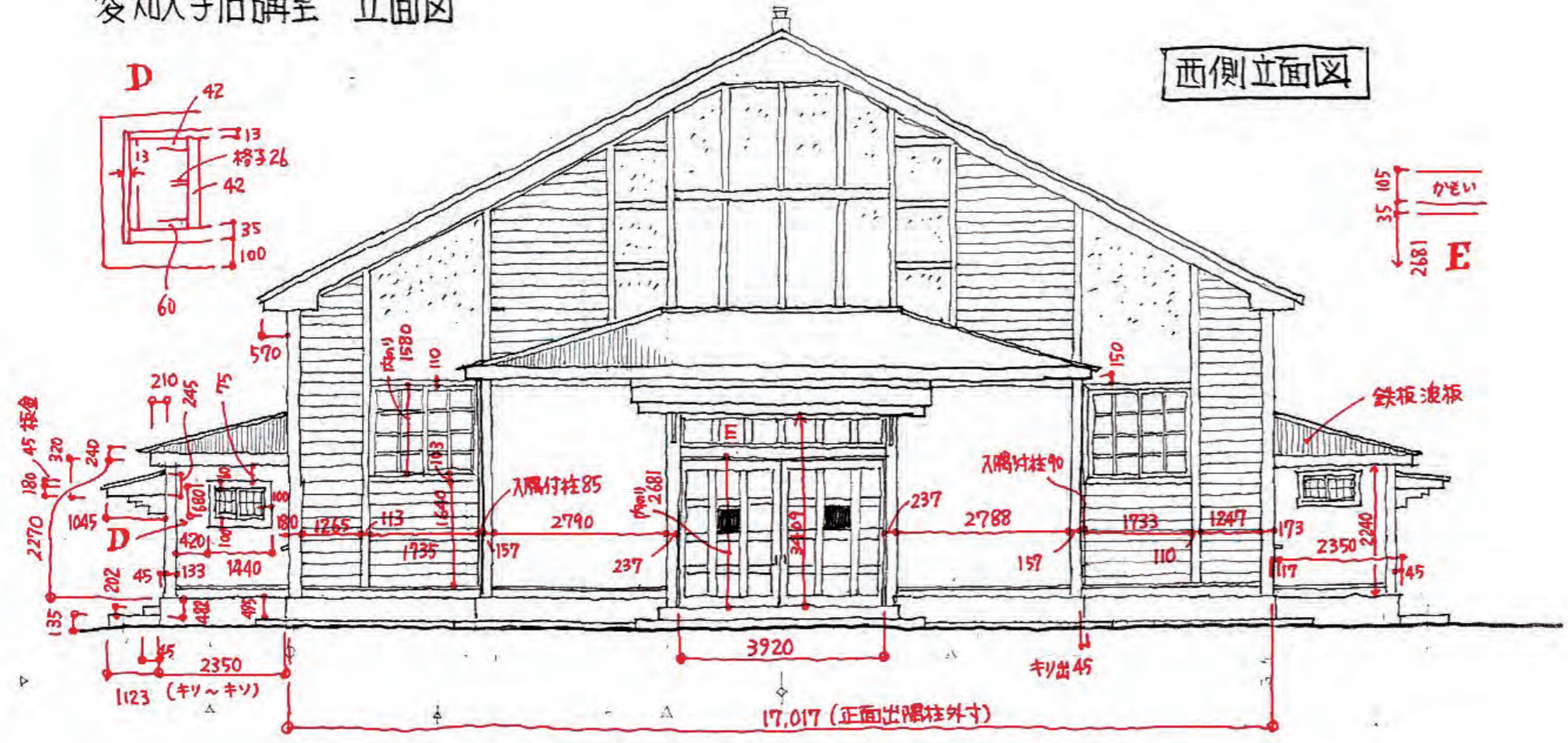
調査名	愛知大学豊橋校舎内旧陸軍第十五師団遺構調査		
建物名	旧大講堂(第二体育館)		
図面	平面図・立面図・断面図	縮尺	1/100
作成日	2020年10月23日 修正日		
作成者	泉田英雄(二川ヘリテージセンター代表)		



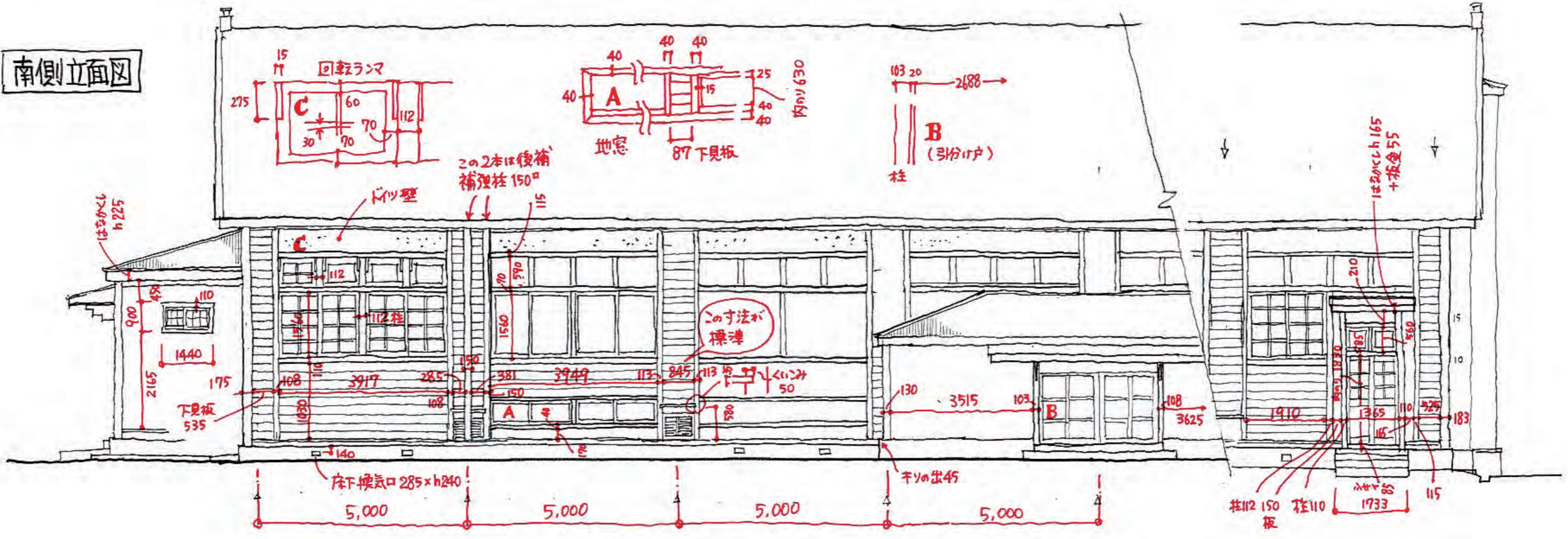
調査名	愛知大学豊橋校舎内旧陸軍第十五師団遺構調査		
建物名	旧大講堂(第二体育館)		
図面	断面詳細図	縮尺	1/50
作成日	2020年10月23日 修正日		
作成者	泉田英雄(図面修正)/藤井智規(3Dスキャナー操作)		



西側立面図



南側立面図



愛知大学豊橋校舎内物件耐震診断業務
構造検討書

令和 3年 2月

(株)魚津社寺工務店

目 次

1. はじめに
 - 1.1 建築物の概要
 - 1.2 地盤の概要

2. 耐震診断
 - 2.1 準拠図書
 - 2.2 木造建築物の耐震診断
 - 2.3 木造建築物の上部構造評定の算定

3. 耐震診断結果と補強計画案
 - 3.1 旧司令部
 - 3.2 旧将校集会所
 - 3.3 旧機銃廠
 - 3.4 旧養生舎
 - 3.5 旧大講堂(鉄骨造)について

4. 補強計画図

旧司令部	補強計画案平面図・柱頭柱脚金物算定平面図
旧将校集会所	補強計画案平面図・柱頭柱脚金物算定平面図
旧機銃廠	補強計画案平面図・柱頭柱脚金物算定平面図
旧養生舎	補強計画案平面図・柱頭柱脚金物算定平面図

5. 耐震診断報告書

旧司令部	現状・耐震補強
旧将校集会所	現状・耐震補強
旧機銃廠	現状・耐震補強
旧養生舎	現状・耐震補強

1. はじめに

この検討書は、愛知大学豊橋校舎内にある 5 棟の旧陸軍の建築物について、耐震診断を実施したものである。

1.1 建築物の概要

対象となる建築物は、旧司令部（大学記念館）、旧将校集会所（旧総合郷土研究所・中部地方産業研究所）、旧機銃廠（中部地方産業研究所附属生活産業資料館）、旧養生舎（教職員組合事務所）、旧大講堂（第二体育館）の 5 棟である。

建築場所は、いずれも愛知県豊橋市町畑町 1-1 地内にある。

各建築物の概要として、表 1.1 に主要な項目を示す。詳細については、それぞれの耐震診断報告書の「建物概要」に示す。

表 1.1 各建物の規模

建物名称	上部構造	基礎構造	階数	延べ面積 (m ²)	棟木高さ (m)	軒の高さ (m)
旧司令部	木造	レンガ積	地上 2 階	1,859	12.980	9.080
旧将校集会所	木造	レンガ積	地上 1 階	474.29	7.214	4.440
旧機銃廠	木造	レンガ積	地上 1 階	198.307	3.670	2.975
旧養生舎	木造	コンクリート造	地上 1 階	120.566	5.561	4.492
旧大講堂	鉄骨造	コンクリート造	地上 1 階	739.584	9.915	5.755

1.2 地盤の概要

当該敷地は、三河高原から流れ下る豊川による河岸段丘地形上にあり、第二種地盤と考えられる。国土地盤情報検索サイト「KuniJiban」より、愛知大学より東側の国道 23 号線沿いのボーリング柱状図と、西側の国道 23 号沿いのボーリング柱状図を示す。いずれも 10m 以上の砂質土が堆積し、12～13m 以深によく締まった粘土混りの礫質土があることがわかる。

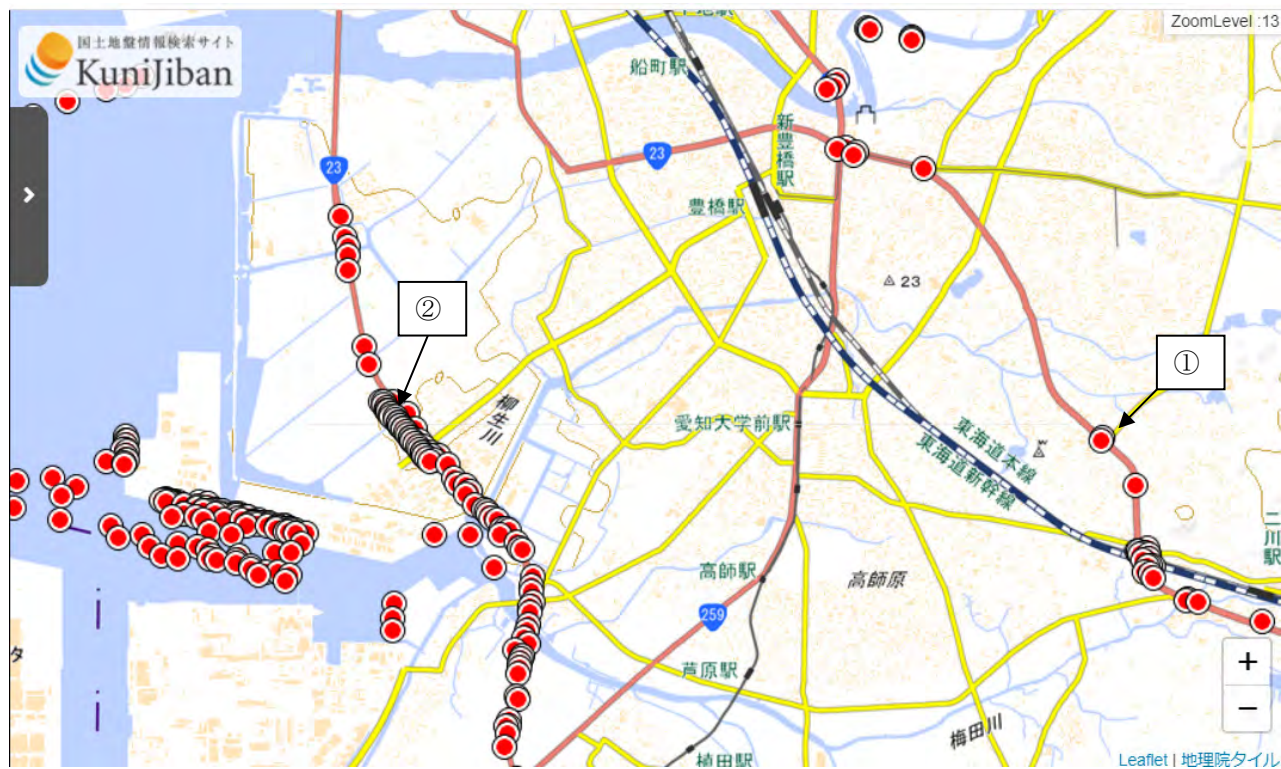


图 1.1 柱状图位置图

ボーリング柱状図

調査名 平成7年度 1号八町地区外1件地質調査
 事業・工事名

ボーリングNO.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNO.

ボーリング名	調査位置			北緯	34° 44' 25.81"
発注機関	国土交通省 中部地方整備局 名古屋国道事務所			東経	137° 25' 14.24"
調査業者名	株式会社キンキ地質センター	主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	29.78 m	角 度	100° 上 30° 下	方 向	270° 北 90° 東 0° 南
総掘進長	15.33 m	地盤 記号	使用 機種	ハンマー 落下用尺	ポンプ
		水平 0°	試験機		
		垂直 90°	エンジン		

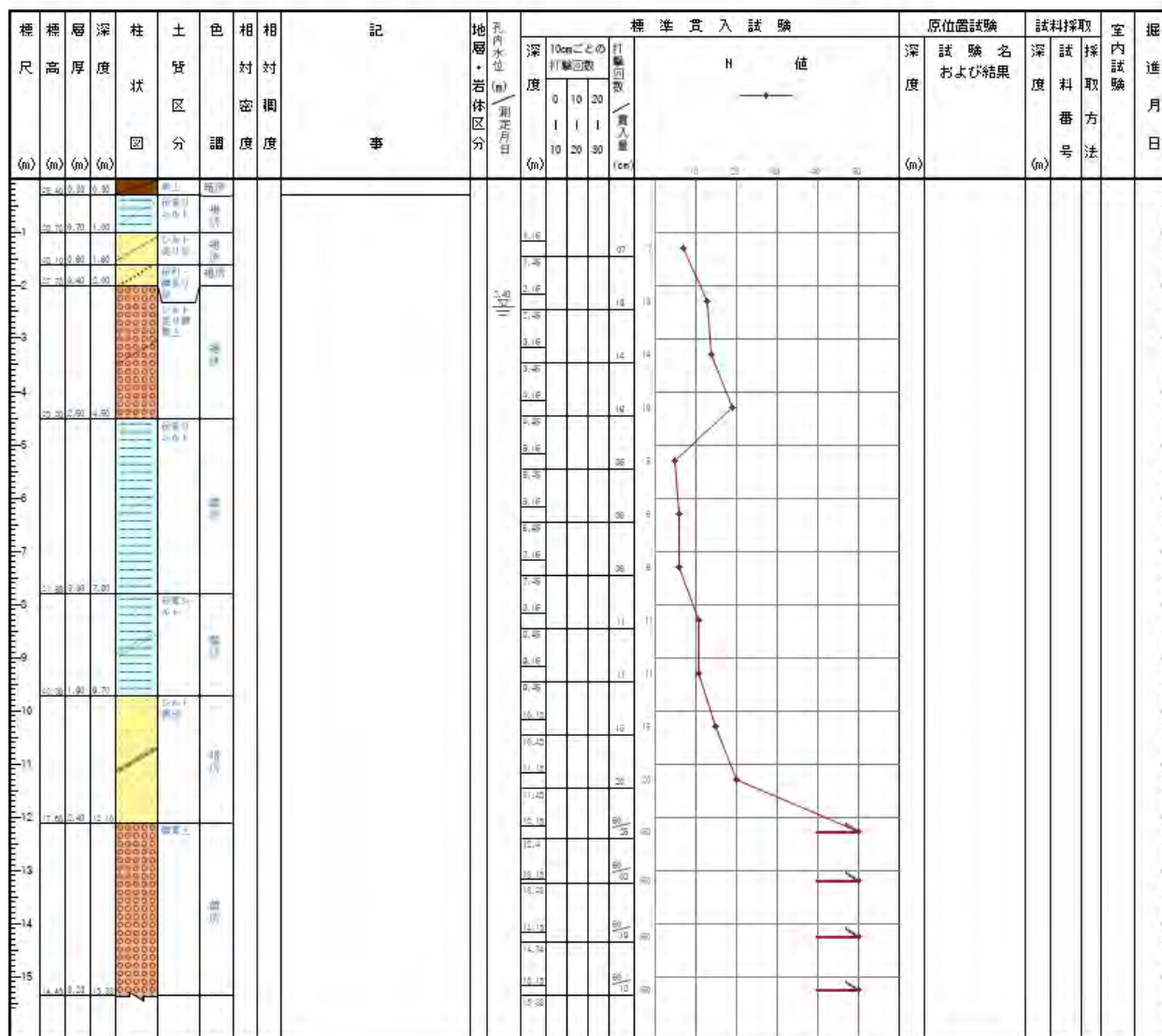


図 1.2 ①愛知大学より東の国道 23 号線沿い

ボーリング柱状図

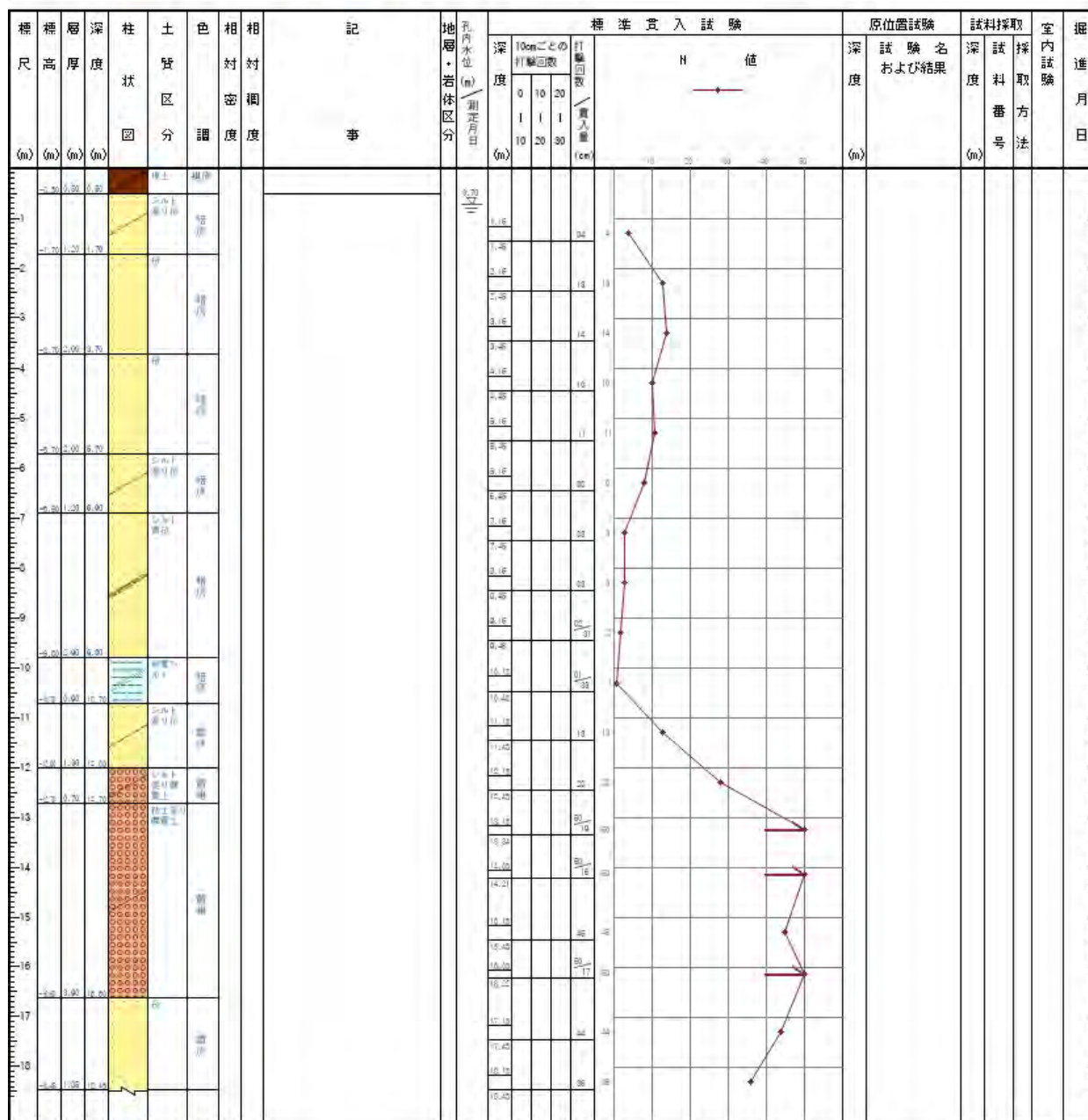
調 査 名 平成10年度23号豊橋バイパス神野新田地区他1件地質調査

ボーリングNo.	<table border="1" style="width: 100%; height: 20px;"> <tr> <td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td><td style="width: 10%;"> </td> </tr> </table>										

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	調査位置	北緯	34° 44' 22.803"
発注機関	国土交通省 中部地方整備局 名四国道事務所	調査期間	～ 1998-11
調査業者名	株式会社タイヤコンサルタント	主任技師	現場代理人
コア番号		ボーリング責任者	
孔口標高	角 100° 上 下 90° 方 向	試験機	ハンマー 落下用具
総掘進長	18.45 m	エンジン	ポンプ



2. 耐震診断

2.1 準拠図書

表 1.1 に示す建築物の中で、4 棟の木造建築物の耐震診断は、(一財)日本建築防災協会『木造住宅の耐震診断と補強方法 (一般診断法)』に基づいて行う。

鉄骨造である旧大講堂は、(一財)日本建築防災協会『耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針・同解説』に基づいて行う。

木造建築物の診断に用いるプログラムは、以下のとおりとする。

開発者名 : 株式会社インテグラル

プログラム名 : ホームズ君「耐震診断 Pro」 Ver.4.3

2.2 木造建築物の耐震診断

対象となる建築物の概要は、前述の表 1.1 およびそれぞれの耐震診断報告書による。

建物概要に記載した項目について、いくつか解説を述べる。

4 棟の木造建築物の建物用途は、「住宅」「店舗併用」「その他」のうち、「その他」で共通とする。

建築物が立地する愛知県豊橋市は多雪区域でないため、積雪による割増を考慮しない。

地域係数 Z は 1.0 とする。

建物重量は、表 2.1 のように分類される。旧司令部、旧将校集会所、旧機銃廠、旧養生舎の 4 棟はいずれも棧瓦葺であるが、現況は土葺が有るものとみなして「非常に重い建物」とし、耐震改修時に屋根を修理するとともに土葺を撤去することで「重い建物」とする前提で考える。

表 2.1 建物重量

種別	摘要
軽い建物	石綿スレート板、鉄板葺、ラスモルタル壁、ボード壁
重い建物	棧瓦葺、土塗り壁、ボード壁
非常に重い建物	土葺瓦屋根、土塗壁

外壁材は耐力が無いものとみなす。

どの建築物も大壁仕様であり、部分解体による調査を行っていないことから、内部の柱間間隔等は推定である。外部の板壁は構造的な耐力を持たないものと考え、内部の漆喰仕上げの木ずり下地がわずかに耐力を持つものとする。修理工事に着手した際に、解体工事により内部に筋交い等が発見された場合は、それらを考慮に入れて再検討を行うことが望ましい。

基礎仕様は、表 2.2 のように分類される。旧司令部、旧将校集会所、旧機銃廠の 3 棟は明治時代の建築物で、基礎がレンガ積である。この仕様は耐震診断に無いが、玉石基礎と同等と判断する。旧養生舎は基礎がコンクリートであるが、配筋の有無を確認できなかったため、無筋とみなして検討を行う。いずれの建築物も、土台と基礎の緊結を確認できていないため、修理の際に適切に健全な基礎と緊結することが求められる。

表 2.2 基礎仕様

形式	状態
鉄筋コンクリート基礎	健全
	ひび割れが生じている
無筋コンクリート基礎	健全
	ひび割れが生じている
玉石基礎	足固めありかつ鉄筋コンクリート底盤に緊結
	足固めのみ又は足固めなし

柱頭柱脚の接合部の仕様は、表 2.3 のように分類される。対象の建築物の年代が明治後期や昭和初期であることから、柱頭柱脚の接合部は「ほぞ差し、釘打ち、かすがい等」と考えて現況の診断を行う。耐震補強を行って柱頭柱脚の接合部を補強する箇所は、別途図面にて示す。

表 2.3 柱頭柱脚の接合部の仕様

種別	摘要
I	平成 12 年(2000)建設省告示第 1460 号に適合する仕様
II	3kN 以上…羽子板ボルト、山形プレート VP、かど金物等
III、IV	3kN 未満…ほぞ差し、釘打ち、かすがい等

床仕様は、表 2.4 のように分類される。対象の建築物はいずれも火打ちが無いものとして検討する。

表 2.4 床仕様

種別	摘要
I	合板
II	火打ち+荒板
III	火打ちなし

2.3 木造建築物の上部構造評点の算定

実測図面および現地調査により、壁の配置とその仕様を平面図にまとめる。

必要耐力 (Q_r) を算定するためには、平面図から各階の床面積を計算し、屋根の仕様や階数に応じて床面積あたりの必要耐力を求める。さらに、軟弱地盤の割増し、形状による割増しを考慮する。

建築物が保有する耐力 (P_a) は、壁の配置とその仕様を X 方向、Y 方向ごとに集計し、耐力要素の配置等による低減係数や、劣化度による低減係数を乗じて求める。

診断結果は、保有する耐力 (P_a) を必要耐力 (Q_r) で割った値である上部構造評点によって、表 2.5 のように分類される。

表 2.5 上部構造評点による判定

上部構造評点	判定
1.5 以上	倒壊しない
1.0 以上～1.5 未満	一応倒壊しない
0.7 以上～1.0 未満	倒壊する可能性がある
0.7 未満	倒壊する可能性が高い

耐力要素の配置による低減係数は、4 分割法を使用した方法により求める。建物の梁間方向、桁行方向の全長を四分割し、梁間方向の両端 1/4 部分、桁行方向の両端 1/4 部分それぞれの方向で保有する耐力と必要耐力の比率（壁率充足率）を算出する。

劣化度による低減係数は、建築物の経年劣化を構造に反映するための、建物全体の構造耐力にかける低減係数である。(一財)日本建築防災協会『木造住宅の耐震診断と補強方法（一般診断法）』より、表 2.6 における調査部位に対して外観の目視によって劣化事象に示すような状況が認められたときは、劣化点数を加算し、低減係数を算出する。なお、劣化係数の下限は 0.7 とする。

表 2.6 劣化度による低減係数

部位	材料、部材等	劣化事象	存在 点数	劣化 点数
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	2
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある		
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	2
	竪樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	2
外壁仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	4
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある		
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある		
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	2
バルコニー 手すり壁	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	1	1
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	1	1
	外壁との接合部	外壁との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ、剥離がある		
バルコニー床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	1	1
内壁一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	2	2
内壁浴室	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	2	2
	タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある		
床面	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	2	2
	廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	1	1
床下		基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	2
合計				

存在点数は建物に該当する部位が存在し、該当する材料が使われている場合、表中の点数を付ける。
劣化点数は存在点数があるものに対し、目視により劣化事象が見られた場合、表中の点数を付ける。
低減係数を $1 - (\text{劣化点数} / \text{存在点数})$ により計算する。(0.7未滿となった場合は0.7とする。)

計算結果はそれぞれの耐震診断報告書によるが、以下に何点か補足する。

各建築物の床下の状況は、レンガ積基礎等の通気口から確認した程度で、確認できなかった箇所に劣化がある可能性を考え、劣化点数を付けた。また、旧司令部は、床面にタイルカーペットやリノリウムが張られているため、当初材の床板の劣化状況は確認できていない。

補強後の診断では、劣化した部分の修理を考慮し、現状の低減係数が0.9未滿のときは上限を0.9とする。

3. 耐震診断結果と補強計画案

愛知大学豊橋校舎内にある 5 棟の旧陸軍の建築物について、現況の耐震診断と補強計画案を行ったときの上部構造評点を、表 3.1 に示す。詳細は、耐震診断報告書による。

表 3.1 上部構造評点のまとめ

建物名		階	上部構造評点		判定
			X 方向	Y 方向	
旧司令部	現 状	2	0.27	0.23	倒壊する可能性が高い
		1	0.21	0.25	
	補強計画	2	1.27	1.23	一応倒壊しない
		1	1.02	1.03	
旧将校集会所	現 状	1	0.08	0.07	倒壊する可能性が高い
	補強計画	1	1.15	1.04	一応倒壊しない
旧機銃廠	現 状	1	0.00	0.00	倒壊する可能性が高い
	補強計画	1	1.14	1.23	一応倒壊しない
旧養生舎	現 状	1	0.10	0.17	倒壊する可能性が高い
	補強計画	1	1.44	1.14	一応倒壊しない

ここで、それぞれの建築物について個別に所見を述べる。

いずれの建築物も、修理工事等により部分解体が行われたときに、内部の軸組から筋交い等の耐力要素が発見される可能性がある。その場合は、それらを適切に考慮し補強の再検討を行うことが望ましいと考える。

3.1 旧司令部

現況の診断では、「倒壊する可能性が高い」という結果となった。

ただし、この診断では、昭和 57 年(1982)の補修工事で行われた外壁面の補強と、平成 9 年(1997)の修理工事で行われた鉄骨柱補強の耐力を含めていない。また、軸組部の筋交いの有無を確認していないため、耐力に含めていない。

耐震補強は、以下の点に留意する。

- 屋根瓦の土葺を撤去し、空葺きにて葺き直す。
- 外壁の板壁を全て取外し、外壁側を構造用合板により耐震壁とし、板壁をその上に復旧する。1 階は外壁と内壁の両面を補強する。
- 耐震壁とした箇所は、柱頭・柱脚接合部を平成 12 年建設省告示第 1460 号に適合する仕様とする。また、過去の修理工事で補強がなされた内部の耐震壁について調査を行い、柱頭・柱脚の接合部を確認し、適切に補強する。
- 耐震壁とした箇所について、鉄筋コンクリート造による基礎補強を行う。このとき、文化財としての価値を損なわないように配慮する。

3.2 旧将校集会所

現況の診断では、「倒壊する可能性が高い」という結果となった。

ただし、この診断では、軸組部の筋交いの有無を確認していないため、それらを耐力に含めていない。

耐震補強は、以下の点に留意する。

- 屋根瓦の土葺を撤去し、空葺きにて葺き直す。
- 外壁の板壁部分を全て取外し、外壁側を構造用合板により耐震壁とし、板壁をその上に復旧する。
- 耐震壁とした箇所は、柱頭・柱脚接合部を平成 12 年建設省告示第 1460 号に適合する仕様とする。
- 耐震壁とした箇所について、鉄筋コンクリート造による基礎補強を行う。このとき、文化財としての価値を損なわないように配慮する。

3.3 旧機銃廠

現況の診断では、外部・内部とも板壁のため耐力となる壁が無く、「倒壊する可能性が高い」という結果となった。

ただし、この診断では、軸組部の筋交いの有無を確認していないため、それらを耐力に含めていない。

耐震補強は、以下の点に留意する。

- ・屋根瓦の土葺を撤去し、空葺きにて葺き直す。ただし、近年になって葺き替えられているようにも見えるため、現況が空葺きの可能性がある。
- ・外壁の板壁部分を全て取外し、外壁側を構造用合板により耐震壁とし、板壁をその上に復旧する。内部にも主に四隅に合板補強を行う。
- ・耐震壁とした箇所は、柱頭・柱脚接合部を平成 12 年建設省告示第 1460 号に適合する仕様とする。
- ・耐震壁とした箇所について、鉄筋コンクリート造による基礎補強を行う。このとき、文化財としての価値を損なわないように配慮する。

3.4 旧養生舎

現況の診断では、壁面がモルタル仕上げのため木ずりがあると考え、その耐力を考慮した。その結果、「倒壊する可能性が高い」となった。

ただし、この診断では、軸組部の筋交いの有無を確認していないため、それらを耐力に含めていない。

耐震補強は、以下の点に留意する。

- ・屋根瓦の土葺を撤去し、空葺きにて葺き直す。
- ・外壁のモルタル仕上げを取外し、外壁側を構造用合板により耐震壁とし、同様にモルタル仕上げを復旧する。
- ・耐震壁とした箇所は、柱頭・柱脚接合部を平成 12 年建設省告示第 1460 号に適合する仕様とする。
- ・耐震壁とした箇所について、鉄筋コンクリート造による基礎補強を行う。このとき、文化財としての価値を損なわないように配慮する。旧養生舎はコンクリート基礎であるが、配筋の有無が確認されていない。部分ハツリや非破壊検査等により配筋が確認され、適切に土台と緊結されていた場合はこの限りではない。

3.5 旧大講堂（鉄骨造）について

旧大講堂は鉄骨造であるが、『2011年改訂版 耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針・同解説』に基づいた耐震診断を行うことができる。しかし、現時点でそれを行うことが困難と判断する。

その理由を以下に述べる。

- ・柱脚や、壁などによって見え隠れとなった接合部の仕様が不明であること

接合部の当初の仕様はリベット接合であると考えられるが、ガセットプレートの寸法やリベットの本数などを詳細に把握する必要があり、それを明らかにするためには部分的に解体をして調査を行い、場合によっては復旧をする必要がある。

鉄骨造の耐震診断を行うとき、建物全体の中でどこが先に崩壊する（降伏ないし破断する）かを、順を追って確認するが、構造上不明な部分があると、その部分がどの時点で崩壊するか判らない。

通常、構造上不明な部分がある場合、その部分には耐力が無いものとして考える。このとき、一般的に耐震診断の結果は耐震性能を有しないものとなる。

「旧豊橋第一陸軍予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面」について

山田 邦明

1 図面の概要

愛知大学豊橋校舎の総務課に「旧豊橋第一陸軍予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面」と題された建物・工作物の図面（158枚）が保管されている。トレース用紙に書き入れがなされた図面で、ほとんどが昭和37年（1962）の払下申請に先だって作成されたものと推測される。

大半の図面に、整理のためのスタンプが捺されている。「旧豊橋第一陸軍予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面」というタイトルがあり、下部に「愛知大学営繕課」の記載がみえる。このスタンプには、以下の事項を書き入れる欄が設けられている。

- ・「整理番号」
- ・「建物（工作物）番号」
- ・「名称又は用途」
- ・（図面の名称と縮尺）
…「平面図」「立面図」などの名称、「1/100」「1/20」といった縮尺を記載。
- ・（年月日）…欄はあるが記載はなし。
- ・「製図」にかかわる事項…欄はあるが記載はなし。
- ・「図面番号」

2 これまでに作成された目録

この図面については、これまでに二度、目録が作成されたことが確認できる。

一つ目は手書きの目録である。「旧豊橋第1陸軍予備士官学校〔歩兵隊〕 払下申請図面台帳 平成6年4月」と上部に記され、「No」「整理番号」「建物工作物番号」「名称又用途」「図面名称 備考」「現名称」「図面番号」の欄を設けている。

「No」欄には1から168までの番号が付されている。これは現在図面に貼付されている付箋の番号と一致し、この段階で図面につけられた「仮番号」であると推測される。平成6年に図面を整理するにあたって、とりあえず図面を並べ番号をつけたのであろう。

「整理番号」「建物工作物番号」「名称又用途」「図面名称 備考」「図面番号」の欄は、前記したスタンプの中の記載をもとに記入されているが、「図面名称 備考」の欄には図面の大きさ（「A2」など）も記載されている。「現名称」の欄には平成6年（1994）4月当時の建物の利用状況（どういう建物として利用されているか）が記載されており、当時の大学のありさまをうかがえるが、かなりの数の建物に「解体」の記載があることは注目できる。

二つ目はワープロで作成された目録である。「旧豊橋第1陸軍予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面台帳 平成10年8月現在」と上部に記され、「No」「整理番号」「工作物番号」「名称及び用途」「図面名称」「縮尺」「サイズ」「使用建物名」「図面番号」の欄を設けてい

る。平成6年作成の手書きの目録を参照しながら、あらためて作成したものだろうが、「使用建物名」の欄の記載は平成10年（1998）8月当時の状況を示すものと考えられる。

3 「建物工作物一覧図」について

この建物・工作物図面に関連して、大学構内における建物・工作物の配置を記載した地図の所在も確認された。A2判の地図（青焼による複写）で、右下に「旧豊橋陸軍第一予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面 建物工作物一覧 昭和36年12月現在」と記され、さらに「凡例」として「（ ） 財務局建物番号又は工作物番号」「○整理番号」「（注）側溝及立木を除く」という記載がみえる。それぞれの建物・工作物には旧陸軍段階の名称が付され、「整理番号」と「財務局建物番号又は工作物番号」が併記される（前者は○、後者は（ ）の中に数字を入れる）という形をとる。

この地図（原図）は昭和36年（1961）に作成されたものだが、現存する青焼の複写には手書きの書き入れがなされている。それぞれの建物が大学のどの施設として利用されているか書き入れたものだが、その内容は前記した平成6年4月作成の「手書きの目録」の内容と共通点が多く、筆跡も似ているので、平成6年の図面整理の過程で書き入れられたものと推測される。ただ、「旧第3サークル棟」と「旧第4サークル棟」の場所、「思草寮」と「翠嵐寮」の場所が、「手書きの目録」と地図への書き入れで異なっている（場所が逆になっている）といったこともあり、記載内容については今後の検討が必要である。

4 目録作成にあたって

今回所在が確認された建物・工作物の図面については、今後詳細な研究が必要となるが、とりあえず現状を把握するために、あらためて目録を作成した。平成6年の整理においては、図面に通し番号を付している（付箋が貼付されている）が、今回の目録作成にあたっては、この番号は利用せず、図面に記載された「整理番号」の順に並べた。このほうが建物・工作物に沿って番号が並び、図面作成当時の状況を再現できると考えたからである。

目録には「No」「整理番号」「名称又は用途」「図面名称」「平成6年4月の状況」「平成10年8月の状況」の欄を設けた。「整理番号」「名称又は用途」「図面名称」は図面の記載（スタンプの中の記載など）をもとに記入し、「平成6年4月の状況」の欄には前記した「手書きの目録」の「現名称」欄の記載、「平成10年8月の状況」の欄には「ワープロで作成した目録」の「使用建物名」欄の記載を書き入れた。「建物・工作物番号」「図面番号」や、図面の縮尺や判形などについては、目録を見やすくするため、記載を省略した。

目録の「No」は169までであるが、2～10・162（公館関係）と23（生徒隊本部）は所在不明である。161までは払下申請に先だって、おそらく昭和36年に作成されたものと推測される（161はスタンプ部分が欠損している）。162～167は公館に関わる図面で、昭和37年に降に作成されたと考えられる（このうち163～165にはスタンプが捺されている）。168・169は愛知大学構内全体に関わる実測図である。

以下、今回作成した目録と、「建物工作物一覧図」の画像（四分割したもの）を収録する。

愛知大学所蔵「旧豊橋第一陸軍予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面」目録

No	整理番号	名称又は用途	図面名称	平成6年4月の状況	平成10年8月の状況
1	1	自動車庫	平面図、小屋伏図、南及東立面図、断面詳細図	正門受付	正門受付
2	1-1	衛戍司令官舎	平面図、立面図	公館	
3	1-2	衛戍司令官舎	立面図	公館	公館
4	1-3	衛戍司令官舎	小屋伏図	公館	(公館) ?
5	1-4	衛戍司令官舎	断面詳細図	公館	
6	1-5	衛戍司令官舎	矩計図、詳細図	(公館?)	(公館) ?
7	1-6	衛戍司令官舎	建具詳細図	公館	(公館) ?
8	1-7	衛戍司令官舎	建具詳細図	公館	(公館) ?
9	1-8	衛戍司令官舎	建具詳細図	公館	(公館) ?
10	1-9	衛戍司令官舎	建具詳細図	公館	(公館) ?
11	2-1	宿舎及車庫	平面図、小屋伏図、詳細図	公館 解体済	
12	2-2	宿舎及車庫	立面図、詳細図	公館 解体済	
13	2-4	厠	平面図、小屋伏図、南及西立面図、断面図、詳細図	正門受付西 解体	正面受付西
14	3	倉庫	平面図、伏図、立面図、断面図	解体	
15	3-1	養生舎	平面図、小屋伏図、矩計図、詳細図	教職員組合事務室	教職員組合事務室
16	3-2	養生舎	東及南立面図、小屋組詳細図、詳細図	教職員組合事務室	教職員組合事務室

17	4	水屋	平面図、伏図、立面図、断面図			
18	4-1	生徒隊本部	平面図（一階）	本館	本館	本館
19	4-2	生徒隊本部	平面図（二階）	本館	本館	本館
20	4-3	生徒隊本部	小屋伏図	本館	本館	本館
21	4-4	生徒隊本部	床伏図	本館	本館	本館
22	4-5	生徒隊本部	南及東立面図、詳細図	本館	本館	本館
23	4-6 (所在不明)	生徒隊本部	矩計図、詳細図	本館	本館	本館
24	5	厠	平面、小屋伏図、東及北立面図、断面図、詳細図	(本部北側) なし	本館北便所	
25	5-1	生徒隊本部附属廊下	平面図、東及北立面図、詳細図	本館 中廊下	本館附属渡廊下	
26	5-2	生徒隊本部附属廊下	小屋伏図、断面図	本館 中廊下	本館附属渡廊下	
27	5-3	—	配線図	公館？	中日辞典室	
28	6-1	生徒隊本部附属家	平面図、小屋伏図、西及北立面図、詳細図	中日辞典室	中日辞典室	
29	6-2	生徒隊本部附属家	断面図	本館 中日辞典	中日辞典室	
30	6、7	油庫、処理所	平面図、立面図、断面図			
31	7-1	学校本部附属家	平面図、小屋伏図、東及南立面図	本館附属建物 倉庫	本館附属便所、倉庫	
32	7-2	倉庫	矩計図、詳細図	本館附属建物 倉庫	本館附属便所、倉庫	
33	7-3	本部附属家	詳細図	本館附属建物 倉庫	本館附属便所、倉庫	
34	8-1	正門	平面図、立面図		正門	

35	8-1	倉庫	平面図、小屋伏図、北及西立面図、 詳細図	国際交流課	国際交流課	国際交流課
36	8-2	正門	断面図	(正門)	正門	正門
37	8-2	倉庫	矩計図	国際交流課	国際交流課	国際交流課
38	9-1	北門	平面図、立面図、断面図	(旧北門)	旧北門	旧北門
39	9-1、10-1、11-1	本部附属物置、廊下	平面図、小屋伏図、詳細図	本館附属建物就職資料 室	本館附属建物就職資料 室	本館附属建物就職資料 室
40	9-2	北門	断面図	旧北門	旧北門	旧北門
41	9-2、10-2、11-2	本部附属物置、廊下	断面図	本館附属建物就職資料 室	本館附属建物就職資料 室	本館附属建物就職資料 室
42	9-3、10-3、11-3	本部附属物置、廊下	東及南立面図	本館附属建物就職資料 室	本館附属建物就職資料 室	本館附属建物就職資料 室
43	10	境界杭	平面図、立面図			
44	11、12	門、板塀	平面図、詳細図			
45	12	廁	平面図、小屋伏図、詳細図	本館中央倉庫北南	本館中央倉庫北南	本館中央倉庫北南
46	13-1	第二機銃廠	平面図、小屋伏図、東及北立面図	管財仮倉庫	管財仮倉庫	管財仮倉庫
47	13-2	第二機銃廠	矩計図、詳細図	管財仮倉庫	管財仮倉庫	管財仮倉庫
48	14-1	兵舎	平面図	短大4号館(平成6年3 月31日解体)	短大4号館	短大4号館
49	14-2	兵舎	小屋伏図、西及北立面図	短大4号館	短大4号館	短大4号館
50	14-3	兵舎	矩計図、詳細図	短大4号館	短大4号館	短大4号館
51	15	仮廁	平面図、小屋伏図、北及西立面図、 詳細図	短大4号館(北東)	短大4号館(北東)	短大4号館(北東)

52	16-1	火藥庫	平面図、小屋伏図、南及西立面図	解体	
53	16-2	火藥庫	矩計図、建具詳細図	解体	
54	17	火藥庫控室	平面図、小屋伏図、北及西立面図、断面図、建具詳細図	解体	
55	18-1	厩舎	平面図、小屋伏図、矩計詳細図	馬術部厩舎	馬術部厩舎
56	18-2	厩舎	東及南立面図、詳細図	馬術部厩舎	馬術部厩舎
57	19-1	生徒舎	平面図、小屋伏図、北及西立面図、詳細図		
58	19-2	生徒舎	詳細図	馬術部部屋？	馬術部厩舎
59	20、79	厠	平面図、小屋伏図、立面図、矩計詳細図	解体？	馬術部便所（解体）
60	21-1	1機自習室	平面図	旧短大3号館跡	短大3号館
61	21-2	1機自習室	小屋伏図、東及南立面図	旧短大3号館跡	短大3号館
62	21-3	1機自習室	矩計図、建具詳細図		
63	22-1	生徒舎	平面図、小屋伏図	旧8番教室跡	8番教室
64	22-2	生徒舎	北及西立面図、詳細図	旧8番教室跡	8番教室
65	22-3	生徒舎	矩計図、詳細図	旧8番教室跡	8番教室
66	23	厠	平面図、小屋伏図、西及南立面図、詳細図		
67	24-1	医務室	平面図、小屋伏図、北及東立面図	旧教職員住宅 解体	教職員住宅
68	24-2	医務室	断面詳細図、建具詳細図	旧教職員住宅 解体	教職員住宅
69	25-1、26-1	医務室附属厠及渡廊下	平面図、小屋伏図、西及南立面図、矩計断面図	旧教職員住宅厠、渡廊下 解体	厠渡廊下

70	25-2、26-2	医務室附属厠及渡廊下	断面図、詳細図	旧教職員住宅厠、渡廊下 解体	教職員住宅
71	27-1	通信器材庫	平面図、小屋伏図、北及西立面図、詳細図	現研究館北側（旧倉庫）	研究館北倉庫
72	27-2	通信器材庫	詳細図	現研究館北側（旧倉庫）	研究館北倉庫
73	28-1	通信講堂	平面図、小屋伏図	旧8番教室	8番教室
74	28-2	通信講堂	矩計（断面）図、建具詳細図	旧8番教室	8番教室
75	28-3	通信講堂	北及東立面図、建具詳細図	旧8番教室	8番教室
76	29-1	通信隊生徒舎	平面図、詳細図	5、6番教室	5、6番教室
77	29-2	通信隊生徒舎	小屋伏図、南及東立面図	5、6番教室	5、6番教室
78	29-3	通信隊生徒舎	矩計詳細図	5、6番教室	5、6番教室
79	30	通信隊生徒舎附属廊下	平面図、小屋伏図、北及東立面図、矩計詳細図		5、6番教室
80	31-1	倉庫	平面図、小屋伏図、北及東立面図、断面詳細図	5、6番教室	5、6番教室
81	31-2	倉庫	詳細図（断面図）	5、6番教室	
82	32-1	倉庫	平面図、小屋伏図、東及南立面図		
83	32-2	倉庫	矩計図、建具詳細図		
84	33-1	倉庫	平面図、矩計図、詳細図	管財作業室	管財作業室
85	33-2	倉庫	小屋伏図、南及東立面図		二研研究所
86	34-1	将校集会所	平面図、東立面図	二研研究所	二研研究所
87	34-2	将校集会所	小屋伏図、詳細図	二研研究所	二研研究所
88	34-3	将校集会所	北立面図、矩計図、詳細図	二研研究所	二研研究所

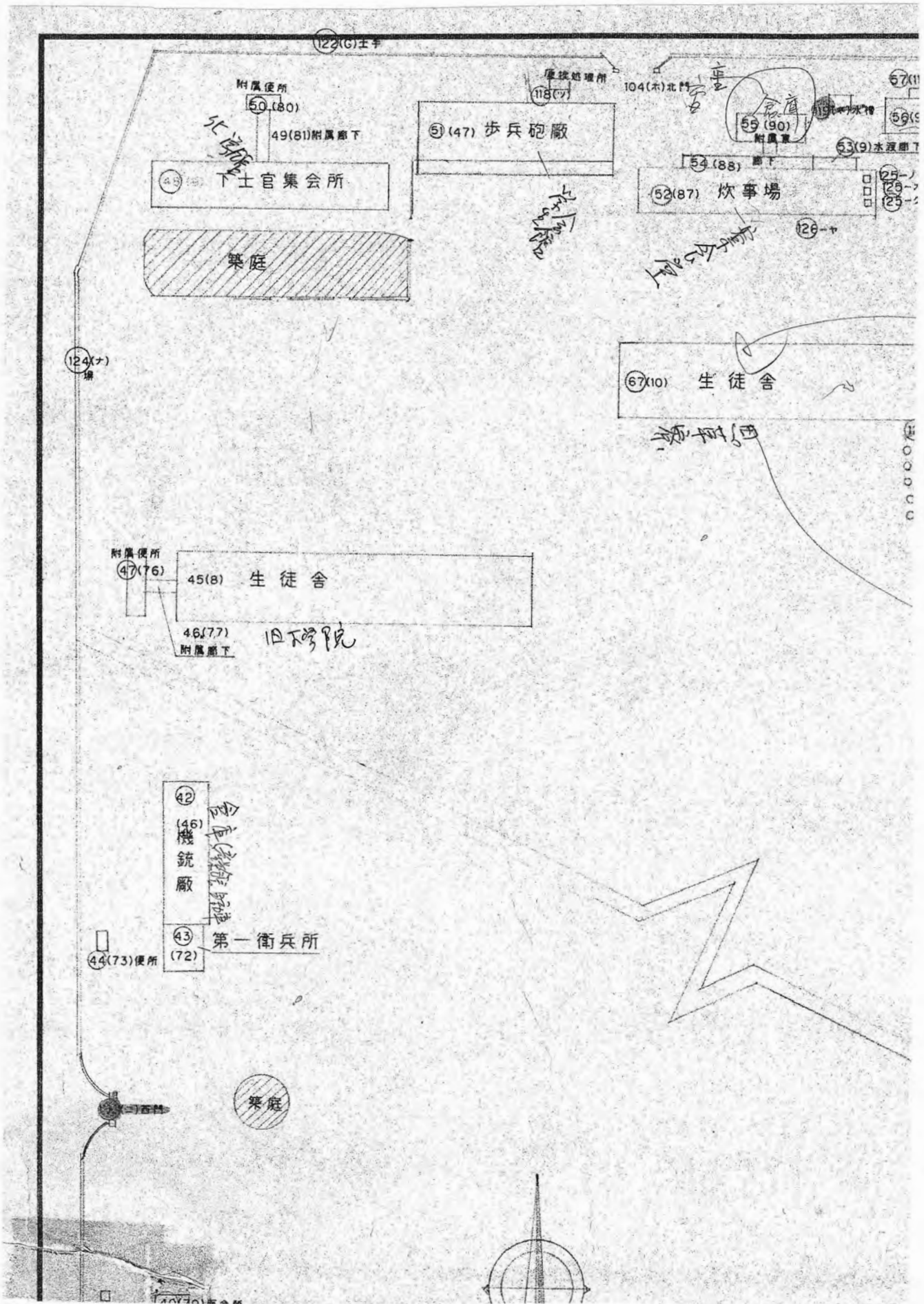
89	34-4	将校集会所	矩計図	二研研究所	二研研究所
90	35-1、36-1	(将校集会所) 附属廊下 及 厠	平面図、小屋伏図、東及南立面図、 断面図、詳細図		
91	35-2、36-2	(将校集会所) 附属廊下及 厠)	断面図		
92	37、38	将校集会所) 附属廊下、厠	平面図、小屋伏図、南及東立面図、 断面図、詳細図	二研研究所	二研研究所
93	39	(将校集会所) 附属家	平面図、小屋伏図、東及南立面図、 基礎伏図、矩計図、詳細図	二研研究所) 便所	便所
94	40	面会所	平面図、小屋伏図、西及北立面図、 矩計図、詳細図		
95	42-1、43-1	機銃廠、第1衛兵所	平面図、小屋伏図、東立面図	自動車部	自動車部
96	42-2、43-2	機銃廠、第1衛兵所	矩計図、詳細図、南立面図	自動車部	自動車部
97	44	厠	平面図、小屋伏図、詳細図		
98	45-1	生徒舎	平面図、小屋伏図、南及東立面図		
99	45-2	生徒舎	矩計図、詳細図		
100	46-1、47-1	生徒舎) 附属廊下、厠及洗 面	平面図、小屋伏図、西及南立面図、 断面図	旧大学院 便所、廊下、 洗面	旧大学院 便所、廊 下、洗面
101	46-2、47-2	生徒舎) 附属廊下、厠及洗 面	断面図、詳細図	旧大学院 便所、廊下、 洗面	旧大学院 便所、廊 下、洗面
102	48-1	下士官集会所	平面図、小屋伏図、南立面図	旧化学館	旧科学館
103	48-2	下士官集会所	矩計図、詳細図	旧化学館	旧科学館
104	49、50	(下士官集会所)	平面図、矩計図、小屋伏図、東及	旧化学館) 廊下、便所	旧科学館 廊下、便所

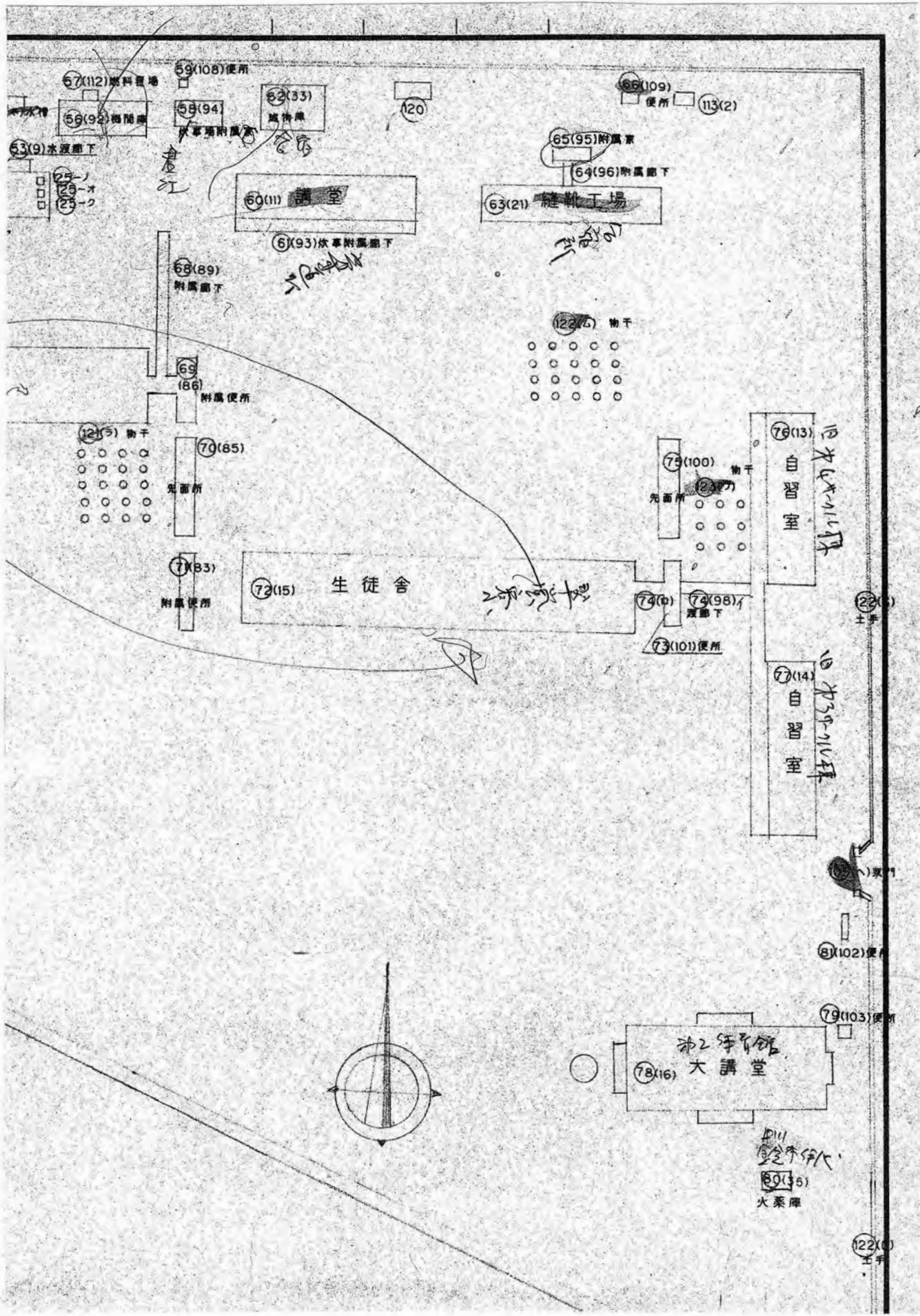
				北立面図				
105	51-1	歩兵砲廠		平面図		旧学生会館		旧学生会館
106	51-2	歩兵砲廠		小屋伏図、床伏図		旧学生会館		
107	51-3	歩兵砲廠		東及西立面図		旧学生会館		
108	51-4	歩兵砲廠		詳細図		旧学生会館		
109	52-1、53-1、54-1	炊事場、廊下、渡廊下		平面図、小屋伏図		寮食堂		寮食堂
110	52-2、53-2、54-2	炊事場、廊下、渡廊下		矩計図、詳細図		寮食堂		寮食堂
111	52-3、53-3、54-4	炊事場、廊下、渡廊下		南及西立面図、詳細図		寮食堂		寮食堂
112	55	附属家		平面図、小屋伏図、北及東立面図、 矩計図、詳細図				
113	56-1、57-1	機関庫、燃料置場		平面図、小屋伏図、南及西立面図、 断面図、詳細図				
114	56-2、57-2	機関庫、燃料置場		断面図、詳細図				
115	58	炊事場附属家		平面図、小屋伏図、東及南立面図、 断面図、詳細図				
116	59	厠		平面図、小屋伏図、東及北立面図、 断面図、詳細図				
117	60-1、61-1	講堂、炊事附属廊下		平面図、小屋伏図、北及東立面図		旧柔道場		旧柔道場
118	60-2、61-2	講堂、炊事附属廊下		矩計図、詳細図		旧柔道場		旧柔道場
119	62	雑物庫		平面図、小屋伏図、南及東立面図、 矩計図、詳細図		旧柔道部合宿所		旧柔道合宿所
120	63-1	縫靴工場		平面図、小屋伏図、北立面図		旧合宿所		旧合宿所
121	63-2	縫靴工場		断面図		旧合宿所		旧合宿所

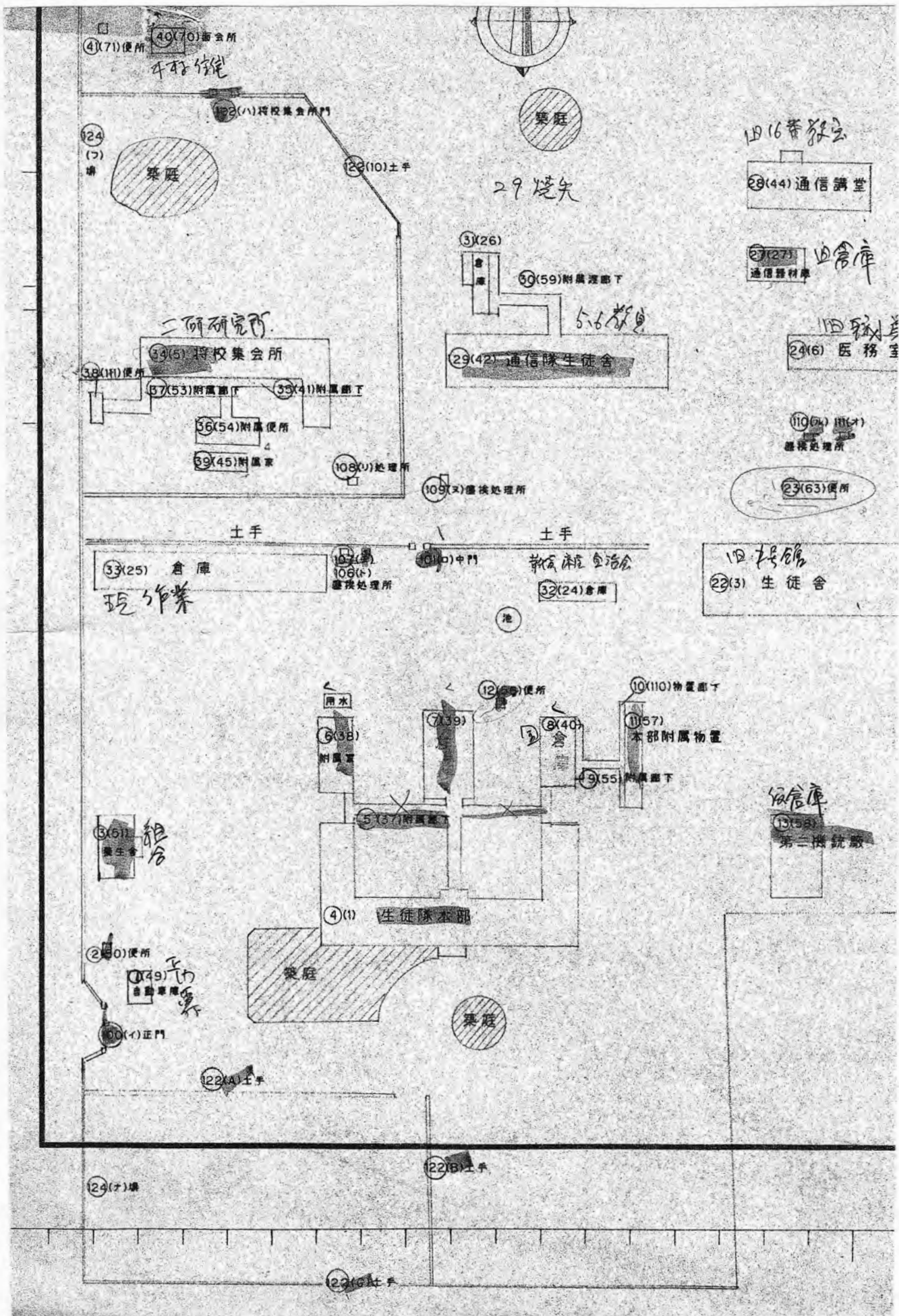
122	63-3	縫靴工場	東立面図、詳細図	旧合宿所	旧合宿所
123	64	(縫靴工場) 附属廊下	平面図、小屋伏図、北及東立面図、断面図	旧合宿所廊下	旧合宿所渡廊下
124	65	(縫靴工場) 附属家	平面図、小屋伏図、東及南立面図、断面図、詳細図	旧合宿所廊下	旧合宿所
125	66	厩	平面図、小屋伏図、北及西立面図、断面図、詳細図	旧合宿所北	旧合宿所北
126	67-1	生徒舎	平面図、小屋伏図、南及東立面図、詳細図	思草寮	思草寮
127	68	(生徒舎) 附属廊下	平面図、小屋伏図、西及南立面図、断面図	思草寮渡り廊下	思草寮渡廊下
128	69-1	(生徒舎) 附属厩	平面図、小屋伏図、東及南立面図	思草寮便所	思草寮便所
129	70	(生徒舎附属) 洗面所	平面図、小屋伏図、北及東立面図、断面図	思草寮洗濯所	思草寮洗面所
130	70、75の中	(生徒舎附属) 洗面所	平面図、東及南立面図、断面図	思草寮洗濯所	思草寮洗面所
131	71-1	(生徒舎) 附属厩	平面図、小屋伏図、東及南立面図	思草寮便所	思草寮便所
132	72-1	生徒舎	平面図、小屋伏図、南及西立面図	翠嵐寮	翠嵐寮
133	73-1、74-1	(生徒舎附属) 厩、渡廊下	平面図、小屋伏図、東及北立面図、断面図	翠嵐寮便所、渡廊下	翠嵐寮厩渡廊下
134	74-2	(生徒舎附属) 廊下	平面図、小屋伏図、北及東立面図、断面図		
135	76-1	自習室	平面図	旧第3サークル棟	第3サークル棟
136	76-2、77-2	自習室	小屋伏図、北及西立面図	旧第3サークル棟	第3サークル棟

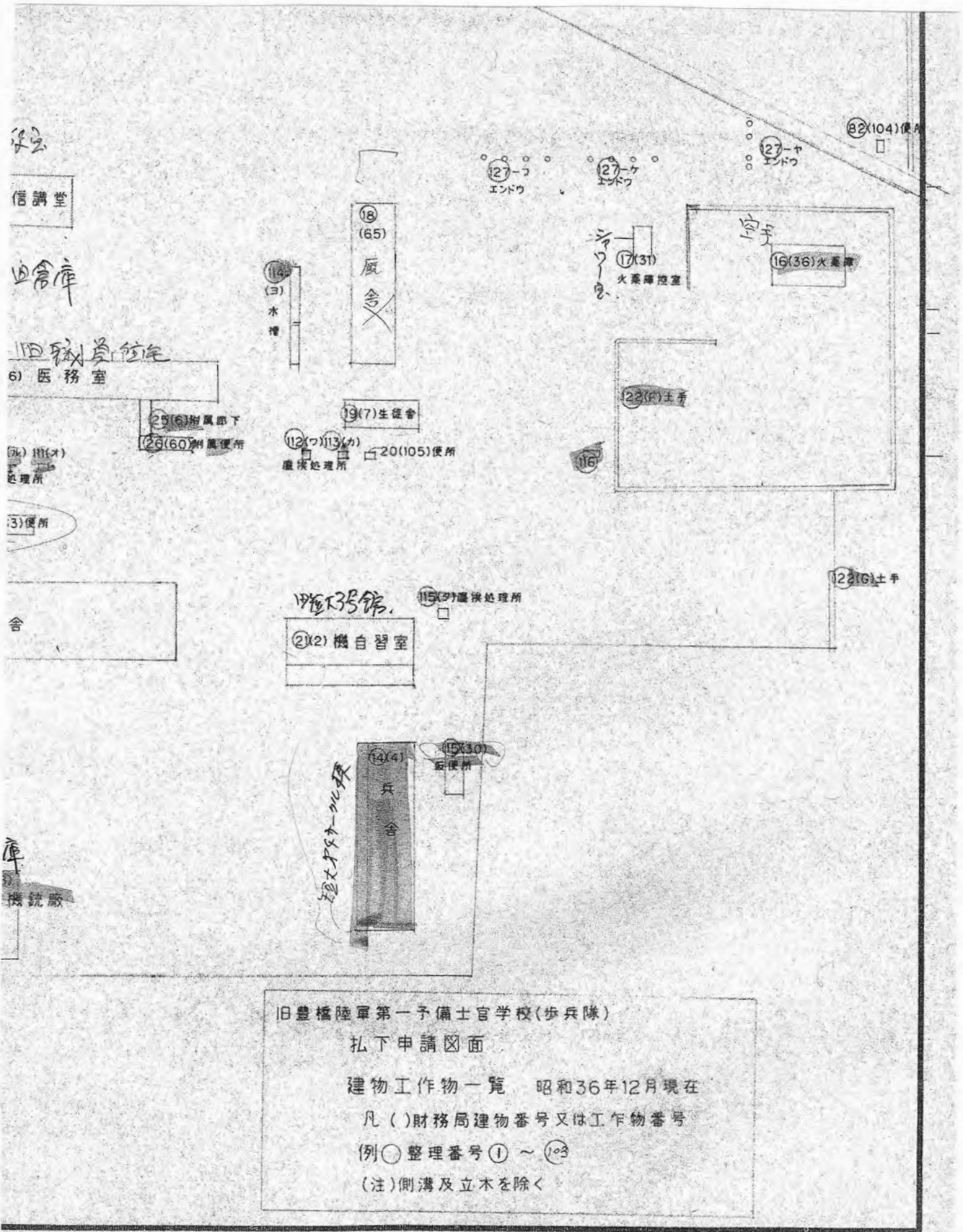
137	77-1	自習室	平面図	旧第4サークル棟	第4サークル棟
138	77-3	自習室	矩計図、詳細図	旧第4サークル棟	旧第4サークル棟
139	78-5	大講堂	矩計図、詳細図	第2体育館	第2体育館
140	80	火薬庫	平面図、小屋伏図、南及西立面図、 矩計図、詳細図	中川伊代住宅	講堂西住宅
141	100-1	正門	平面図、立面図	正門	正門
142	100-2	正門	断面図	正門	正門
143	101	中門	平面図、立面図、断面図	解体	
144	102、104	将校集会所門、北門	平面図、立面図、断面図	なし?	
145	103	西門	平面図、立面図、断面図	副門	副門
146	105	東門	平面図、立面図、断面図	解体	
147	105、107、109、110、 111	塵埃処理場	平面図、立面図、断面詳細図	旧学生会館北、作業室 東、旧職員住宅南	
148	112、113、114、115	塵埃処理場、水槽	平面図、立面図、断面詳細図	旧短大3号館東	
149	116-、124-	処理所、コンクリ塀	平面図、平面図、断面図	処理所 解体	
150	117-、208-	処理所	平面図、伏図、立面図、断面図	解体	
151	118、121、122、123	塵埃処理場、物干場	平面図、立面図、断面詳細図	解体	
152	119	水槽	平面図、立面図、断面図	解体	
153	120	(水槽)	平面図、伏図、南及東立面図、断 面図	解体	
154	122	土塀	断面図	一部解体	
155	125	煙道、煙突	平面図、断面図、側面図	解体	
156	126	炊事場作業装置	平面図、立面図、断面図	解体	

157	126		炊事場作業装置	断面図	解体	
158	127		鉄棒	平面図、詳細図、基礎伏図	解体	
159	(127)		鉄棒	平面図、断面図	解体	
160	128		作業装置 煙道	平面図、断面図	解体	
161			(厠)	(平面図、小屋伏図、東及南立面 図、断面図)		
162	(所在不明)		衛戍司令官舎	平面図	公館	公館
163			(豊橋衛戍司令官官舎土 地実測図)	実測図	公館	公館
164			(建物配置図)	建物配置図	公館	公館
165			(新築建物配置図)	愛大公館配置図 (S40.1.11)	公館	公館
166			(配置図)		公館	公館
167			(愛知大学公館配置図)	公館配置 (S37.8.8)	公館	公館
168			(愛知大学実測図)	愛知大学実測図		
169			(旧豊橋陸軍第一予備士 官学校実測図)			









旧豊橋陸軍第一予備士官学校(歩兵隊)
 私下申請図面
 建物工作物一覧 昭和36年12月現在
 凡()財務局建物番号又は工作物番号
 例○整理番号① ~ ①③
 (注)側溝及立木を除く

愛知大学特別重点研究
愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究
年次報告書（2020年度）

発行日 2021年3月10日
編集・発行 愛知大学総合郷土研究所
〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1

印刷・デザイン 株式会社 シンプリ
〒442-0821 豊川市当古町西新井 23-3

